

# 上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡

—市内遺跡発掘調査報告書3—

2003.3

岩手県宮古市教育委員会



# 上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡

—市内遺跡発掘調査報告書3—

2003.3

岩手県宮古市教育委員会



## 序 文

宮古市ではこれまで多くの埋蔵文化財調査を実施してきました。その成果は、縄文時代から近世に及び実に多様であり、宮古の歴史の厚さを実感させられます。今回の調査では、近世の建物跡などを主体とした遺構が出土しました。近世ははるか昔の縄文時代に比べれば最近のことであり、それだけ理解しやすいように思われますが、近世はその変化の激しさのゆえに分からなくなっていることがたくさんあります。そういう意味で近世の遺産を伝えていくこともわれわれの重要な責務と考えます。

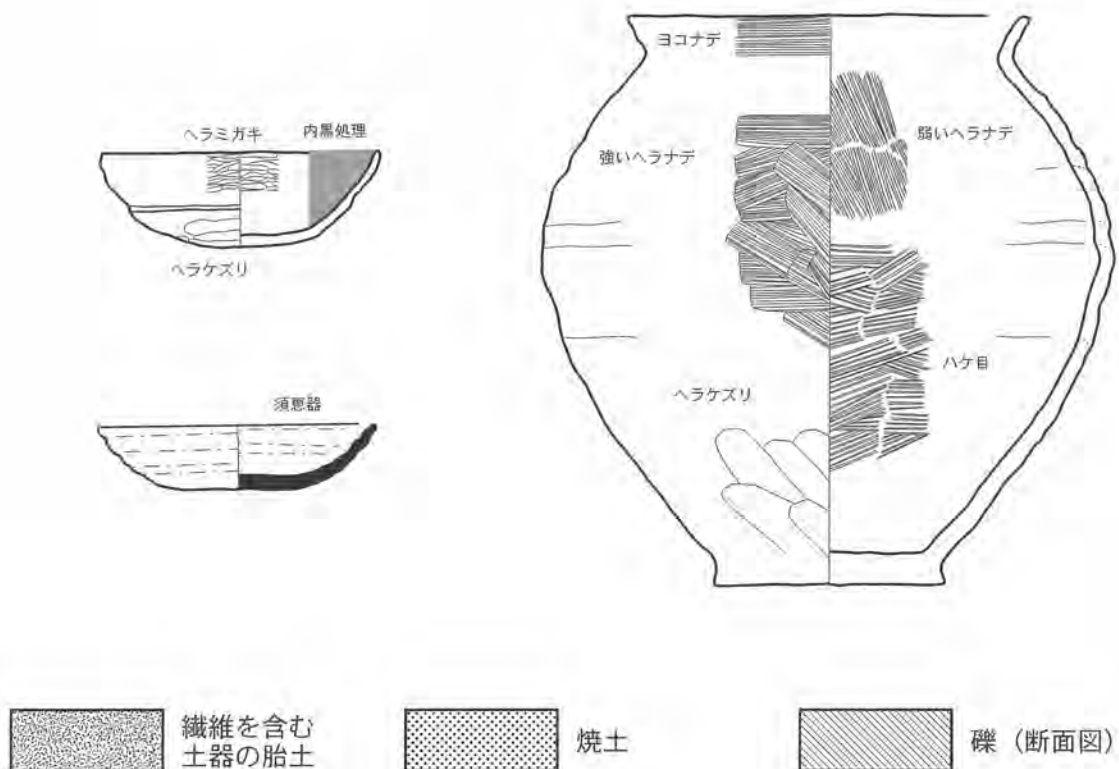
最後になりましたが、今回の調査にあたり野外での発掘、あるいは室内での資料整理に協力いただいた関係者、各位に感謝申し上げますとともにこれらの成果が広く活用されることを願って序文とします。

平成15年3月

宮古市教育委員会  
教育長 中屋定基

## 例 言

1. 本書は、宮古市津軽石地区の上根井沢 I 遺跡、沼里遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査の主体は宮古市教育委員会である。発掘調査、本書の編集、執筆は阿部が担当した。
3. 調査座標は任意のものである。高さは標高値をそのまま使用した。また、土層断面図のなかで標高規準値の記入のないものは、「同左」のことである。
4. 遺物の表現については下記の通りとした。



5. 写真図版中の遺物に付した番号は、図版番号－遺物番号である。
6. 土層観察に際しては、「新版標準土色帖」(1995版日本色彩研究所)を参考とした。
7. 出土した遺物、実測図、写真など調査に関する資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。
8. 遺物の整理にあたり次の方からご教示いただきました。記して感謝申し上げます。

関根 達人 (弘前大学)

# 目次

例言

目次

I 調査経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査体制	1
3. 遺跡の立地と環境	2
II 調査の結果	5
1. 上根井沢 I 遺跡	5
1-1 調査要旨	7
1-2 遺跡の立地と基本層序	7
1-3 検出した遺構、遺物	12
1-4 調査のまとめ	22
2. 沼里遺跡	29
2-1 調査要旨	31
2-2 遺跡の立地と基本層序	31
2-3 検出した遺構、遺物	34
a 縄文時代の遺構	34
b 古代の遺構	39
c 近世の遺構	42
2-4 調査のまとめ	56
報告書抄録	65

## 図版目次

第1図	位置図	3
第2図	地形分類図	4
第3図	周辺の地形	7
第4図	遺構の配置	9
第5図	調査区土層断面	11
第6図	掘立柱建物跡、柱穴列跡、溝、段状遺構跡	13
第7図	柱穴、土坑跡断面(1)	15
第8図	柱穴、土坑跡断面(2)	16
第9図	柱穴、土坑跡断面(3)	17
第10図	柱穴、土坑跡断面(4)	18
第11図	8号焼土遺構	18
第12図	出土遺物(1)	20
第13図	出土遺物(2)	21
第14図	遺跡周辺の地形	31
第15図	遺構の配置	32
第16図	調査区土層断面	33
第17図	縄文時代の遺構	35
第18図	26号竪穴状遺構、25号土坑群出土遺物(1)	36
第19図	25号土坑群出土遺物(2)	37
第20図	25号土坑群出土遺物(3)	38
第21図	古代の遺構	40
第22図	1号土坑出土遺物	41
第23図	近世の遺構	43
第24図	遺構土層断面(1)	45
第25図	遺構土層断面(2)	46
第26図	2号墓坑跡出土遺物(1)	47
第27図	2号墓坑跡出土遺物(2)	48
第28図	2号墓坑跡(3)、45号溝、柱穴跡出土遺物	49
第29図	28号溝跡出土遺物	50
第30図	遺構外出土遺物(1)	52
第31図	遺構外出土遺物(2)	53
第32図	遺構外出土遺物(3)	54
第33図	遺構外出土遺物(4)	55



# 写真図版目次

## 〈上根井沢Ⅰ遺跡〉

写真図版 1	航空写真	25
写真図版 2	調査区全景、遺構検出状況	26
写真図版 3	柱穴、土坑、溝、焼土遺構の検出状況	27
写真図版 4	出土遺物	28

## 〈沼里遺跡〉

写真図版 5	航空写真	59
写真図版 6	調査区全景、遺構検出状況	60
写真図版 7	遺構検出状況	61
写真図版 8	出土遺物	62
写真図版 9	出土遺物	63
写真図版10	出土遺物	64



# I 調査経過

## 1. 調査に至る経過

### 上根井沢 I 遺跡

平成12年1月、遺跡包蔵地内に個人住宅建設を予定していた地権者伊藤貞作氏との間で協議が行われ、試掘調査の実施が取り決められた。試掘調査は同年6月に行われ、その結果遺構の存在が確認された。試掘調査終了後ただちに本調査の実施について伊藤氏と再度協議を行い、委員会側では平成12年度内の調査に対応することができなかつたので、平成13年度に実施することが決めた。本調査は平成13年7月9日に開始し、同年8月8日に終了した。

### 沼里遺跡

平成12年6月に個人住宅の建設を予定していた地権者寺舘リツ子氏から照会文書が提出された。予定地は遺跡包蔵地内であり、現地で遺物も確認されていたので、寺舘氏との協議の末、発掘調査を実施することが決まった。第1次調査は、敷地北側の宅地建設予定地で平成12年7月に行われ、江戸時代の墓坑跡、溝跡などを検出した。その後、設計変更などの理由から宅地を南側に変更したいので、ついては当該区域の発掘調査を実施して欲しいとの要望が出された。再度の協議を行い、平成13年度の調査の実施が決められた。第2次調査は平成13年8月9日に開始し、同年9月4日に終了した。

## 2. 調査体制

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋 定基
調査総括	沼崎 幸夫	宮古市教育委員会社会教育課長	(平成12年度)
	伊藤 賢一	"	(平成13年度から)
事務担当	瀬川 康平	宮古市教育委員会社会教育課長補佐兼文化係長	(平成13年度まで)
	小本 完	"	(平成14年度から)
	宇都宮 禎子	宮古市教育委員会社会教育係長	(平成12年度まで)
	箱石 憲市	"	(平成13年度から)
調査員	竹下 将男	宮古市教育委員会社会教育課主任文化財調査員	
	高橋 憲太郎	"	社会教育課主任文化財調査員
	鎌田 祐二	"	社会教育課主任文化財調査員
	加納 由美	"	社会教育課文化財調査員
	安原 誠	"	社会教育課文化財調査員
	長谷川 真	"	社会教育課文化財調査員

阿部 豊 宮古市教育委員会社会教育課埋蔵文化財調査員（主担当）  
江口 邦泰 “ 社会教育課埋蔵文化財調査員

調査の実施にあたり、下記の方々から多大な協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

阿部 登、大下 義文、福士 祐二、大沢 裕明

中村 明子、佐々木 厚子

なお、発掘調査にあたり、地権者の伊藤貞作様、寺館リツ子様から多大なるご協力を賜りました。記して謝意を表します。

### 3. 遺跡の立地と環境

#### (1) 宮古市の地形

宮古市は、岩手県沿岸部のほぼ中央に位置する人口5万ほどの町である。海岸線は宮古市を境にその景観を大きく異にし、すなわち北部海岸線は海岸段丘が続く隆起性海岸で断崖絶壁をなして海へ落ち込むのに対し、南部は沈降性の典型的なリアス式海岸の複雑に入り組んだ海岸線を形成し、貝塚などが多いことでも名高い。

市域は、338.38 km<sup>2</sup>を有し、その大部分は中小起伏の山地帯が占める。宮古湾最深部に河口をもつ津軽石川より宮古湾西岸沿いに、北北東から南南西にのびる津軽石断層帯がある。その断層帯を境に西部の大起伏山地から続く中小起伏の山地帯およびその周辺部に形成された丘陵帯と東部の重茂半島と大きく二分される。さらに、西から東へ流れる閉伊川、北流する津軽石川およびその支流により開析されてできた谷底平野や河岸段丘、両河川の河口付近を中心とした沖積平野がわずかな平地を形成している。西部の大起伏山地は東部海岸線へむかって次第に標高を下げ、中小起伏山地となり、さらに標高100m前後の丘陵へと続く。

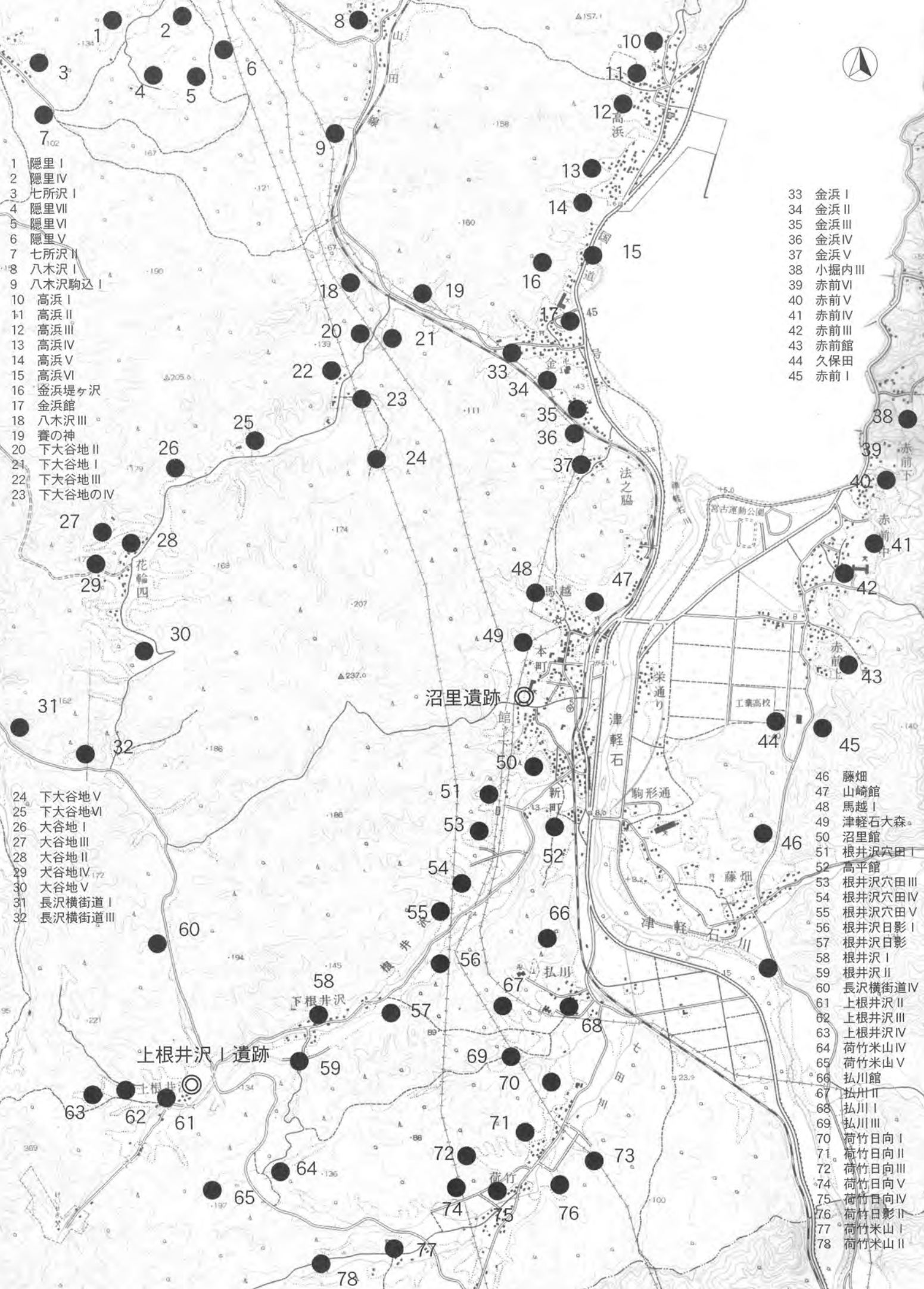
丘陵は、海岸線沿いには北部に小本丘陵、重茂半島に鉾ヶ崎丘陵、河川沿いには閉伊川河岸に千徳丘陵、八木沢川河岸に八木沢丘陵、津軽石川河岸に豊間根丘陵がそれぞれ形成されている。

#### (2) 周辺の遺跡と遺跡の位置

宮古湾頭を豊間根丘陵がU字状に取り囲み、その丘陵を津軽石川が二分している。遺跡は丘陵部と津軽石川の流域に形成された沖積地に分布する。遺跡の種類は、縄文、古代の遺跡の他に中世の城館跡、近世の建物跡など多様である。これまでの調査例からみると特に製鉄関連の遺構が目立っている。

沼里遺跡は、津軽石川の左岸の平地、丘陵に近い地点に位置している。これまでの調査で、縄文時代の遺構、古代の製鉄関連遺構などが確認されている。

津軽石川の支流の一つが、南西から流入する根井沢である。根井沢流域にも多くの遺跡が分布しており、これまで製鉄炉跡などが確認されている。上根井沢I遺跡は、根井沢の上流、沢が合流するやや開けた地点に位置している。



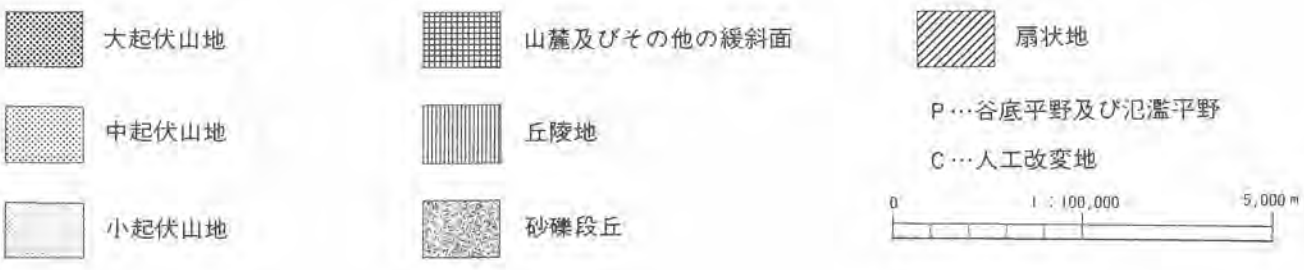
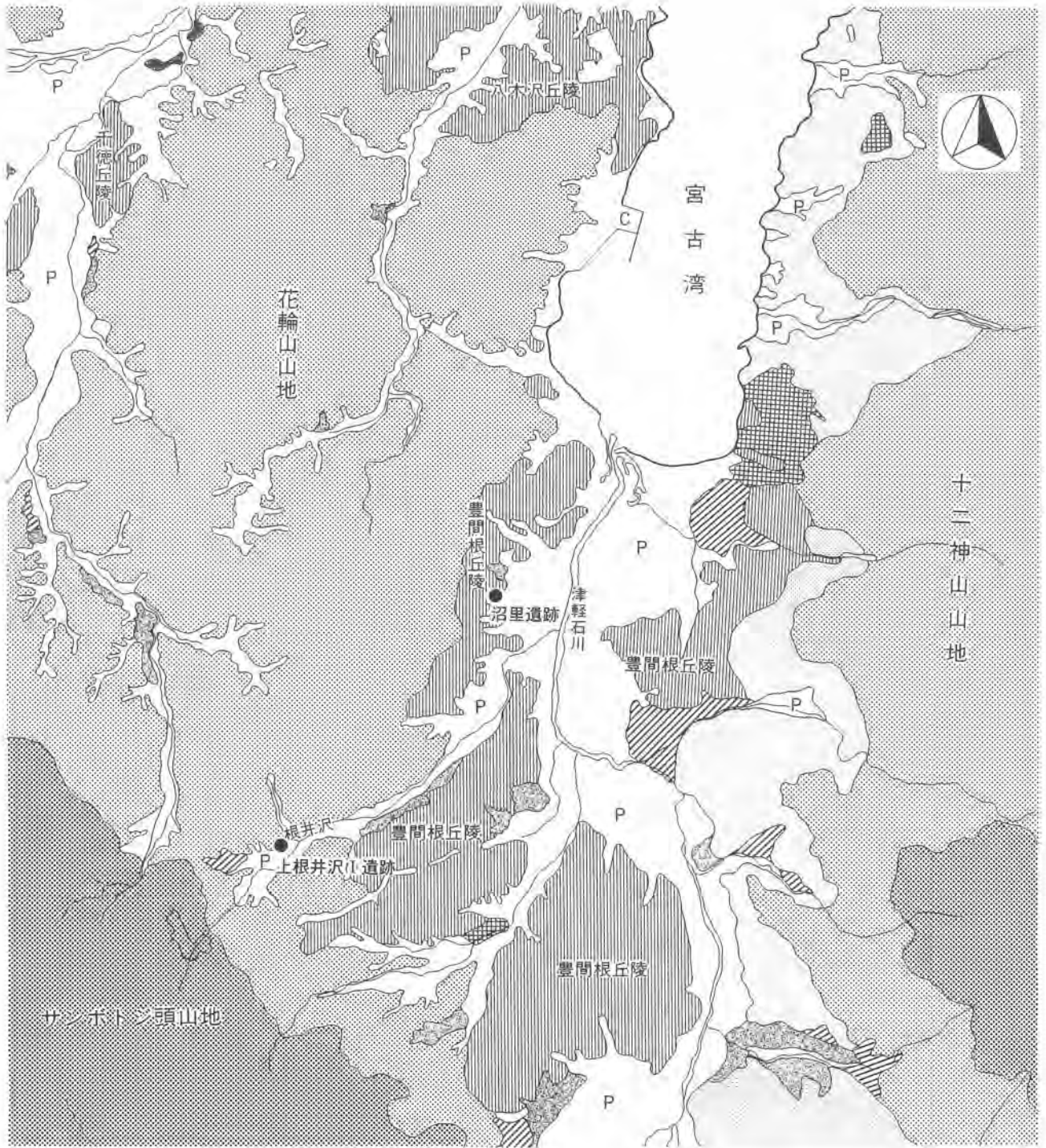
- 1 隠里Ⅰ
- 2 隠里Ⅳ
- 3 七所沢Ⅰ
- 4 隠里Ⅶ
- 5 隠里Ⅵ
- 6 隠里Ⅴ
- 7 七所沢Ⅱ
- 8 八木沢Ⅰ
- 9 八木沢駒込Ⅰ
- 10 高浜Ⅰ
- 11 高浜Ⅱ
- 12 高浜Ⅲ
- 13 高浜Ⅳ
- 14 高浜Ⅴ
- 15 高浜Ⅵ
- 16 金浜堤ヶ沢
- 17 金浜館
- 18 八木沢Ⅲ
- 19 賽の神
- 20 下大谷地Ⅱ
- 21 下大谷地Ⅰ
- 22 下大谷地Ⅲ
- 23 下大谷地のⅣ

- 24 下大谷地Ⅴ
- 25 下大谷地Ⅵ
- 26 大谷地Ⅰ
- 27 大谷地Ⅲ
- 28 大谷地Ⅱ
- 29 大谷地Ⅳ
- 30 大谷地Ⅴ
- 31 長沢横街道Ⅰ
- 32 長沢横街道Ⅲ

- 33 金浜Ⅰ
- 34 金浜Ⅱ
- 35 金浜Ⅲ
- 36 金浜Ⅳ
- 37 金浜Ⅴ
- 38 小堀内Ⅲ
- 39 赤前Ⅵ
- 40 赤前Ⅴ
- 41 赤前Ⅳ
- 42 赤前Ⅲ
- 43 赤前Ⅱ
- 44 久保田
- 45 赤前Ⅰ

- 46 藤畑
- 47 山崎館
- 48 馬越Ⅰ
- 49 津軽石大森
- 50 沼里館
- 51 根井沢穴田Ⅰ
- 52 高平館
- 53 根井沢穴田Ⅲ
- 54 根井沢穴田Ⅱ
- 55 根井沢穴田Ⅴ
- 56 根井沢日影Ⅰ
- 57 根井沢日影Ⅱ
- 58 根井沢Ⅰ
- 59 根井沢Ⅱ
- 60 長沢横街道Ⅳ
- 61 上根井沢Ⅱ
- 62 上根井沢Ⅲ
- 63 上根井沢Ⅳ
- 64 荷竹米山Ⅳ
- 65 荷竹米山Ⅴ
- 66 弘川館
- 67 弘川Ⅱ
- 68 弘川Ⅰ
- 69 弘川Ⅲ
- 70 荷竹日向Ⅰ
- 71 荷竹日向Ⅱ
- 72 荷竹日向Ⅲ
- 73 荷竹日向Ⅳ
- 74 荷竹日向Ⅴ
- 75 荷竹日向Ⅵ
- 76 荷竹日影Ⅱ
- 77 荷竹米山Ⅰ
- 78 荷竹米山Ⅱ

第1図 位置図



第2図 地形分類図

## II 調査の結果

### 1. 上根井沢 I 遺跡





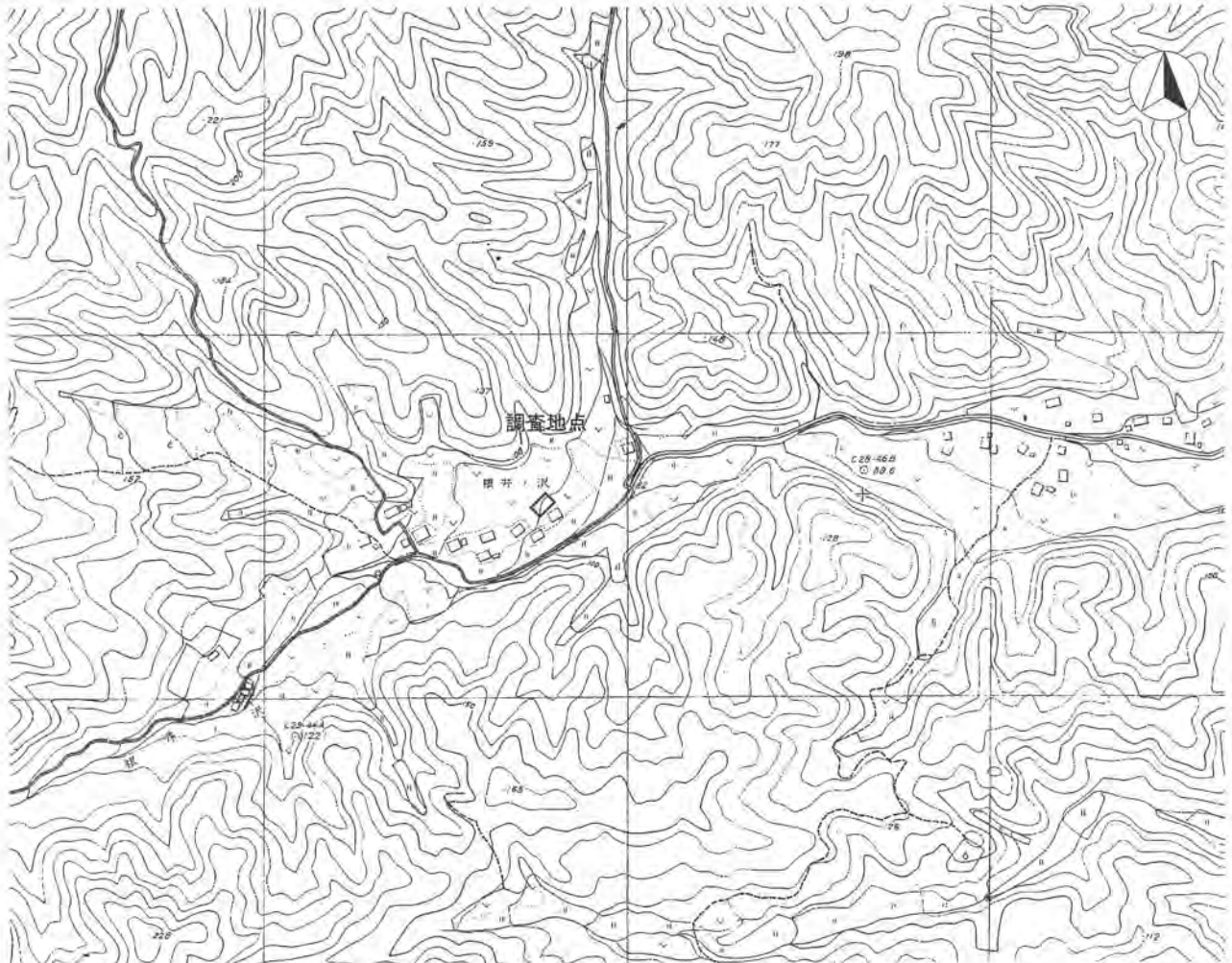
# 上根井沢 I 遺跡

## 1-1 調査要旨

遺跡名	上根井沢 I 遺跡 (遺跡コード LG53-2063)
調査地点	宮古市大字津軽石第20地割字根井沢52番3
調査面積	450㎡
調査期間	試掘調査 平成12年6月5日～同年6月19日 本調査 平成13年7月9日～同年8月8日
検出遺構、遺物	掘立柱建物跡 2棟、柱穴列跡、土坑跡 陶磁器、鉄製品、石器

## 1-2 遺跡の立地と基本層序

調査地点は、根井ノ沢沿いの山麓に形成された緩斜面で、現在は水田、畑地として利用されている。調査地の東側は根井沢に注ぐ沢が流れて隣地との境になっている。また、調査対象区の東半分はすでに削平されていることが分かり、畑として利用されていた西側のみを調査対象とした。調査地点は、緩斜面と沢に向かって降りていく傾斜面からなり、遺構は大半が緩斜面から検出している。



第3図 周辺の地形

### 基本層序（第5図）

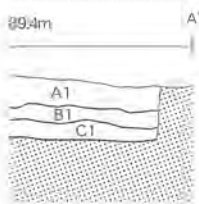
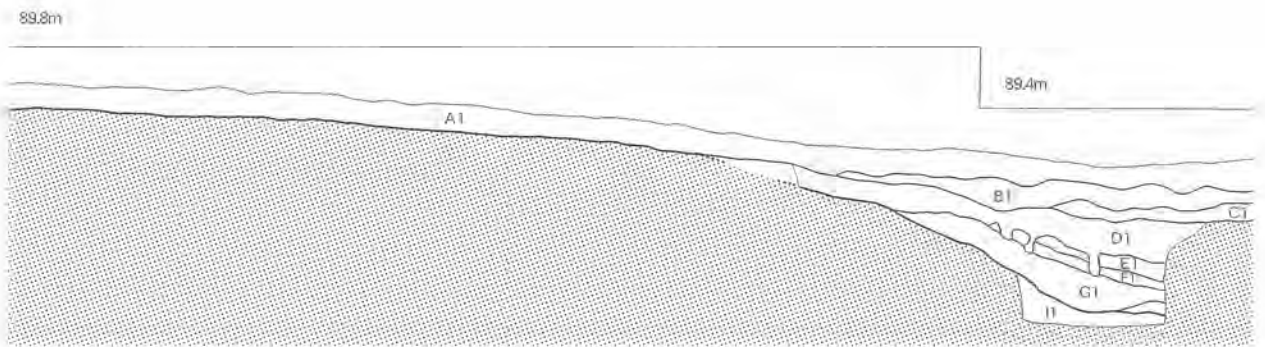
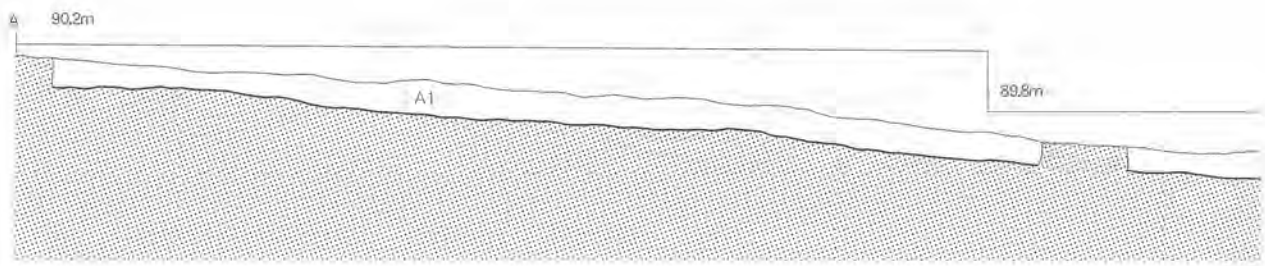
- A 1 層 全域に分布する黒褐色土層である。陶磁器、石器などを含む。
- B 1 層、周辺の傾斜地に堆積するシルト質の黒色土である。陶磁器を含む。
- C 1 層～I 層は調査区南側の傾斜地で確認された堆積土である。
- C 1 層 シルト質の黒褐色土で、陶磁器が出土している。
- D 1 層 シルト質のにぶい黄褐色土で、遺物は出土していない。
- E 1 層 やはりシルト質のにぶい黄褐色土だが、D 1 層より固く、締まっている。遺物は出土していない。
- F 1 層 明黄褐色の火山灰層である。<sup>ちゅうせり</sup>中振火山灰層の一次堆積と思われる。
- G 1 層 暗褐色の砂壤土で、多量の炭粒を含む。
- H 1 層 水成堆積層である。シルト質の固く締まった暗褐色土層である。東側に堆積するL 1 層に対応する。
- I 1 層 地山層で、褐色の砂壤土である。
- J 1 層～M 1 層は調査区北東部で観察された堆積土層である。いずれも固く、締まった堆積土である。
- J 1 層 灰黄褐色の砂壤土で、上面に鉄錆と思われる酸化物を含む。
- K 1 層 砂礫層とシルト質の砂壤土が互層になっている堆積層である。
- L 1 層 暗褐色のシルト質砂壤土である。南側に堆積するH 1 層に対応する。
- M 1 層 暗褐色の砂壤土である。K 1 層に類似する水成堆積層である。

今回の調査で出土した遺構の生活面は南西部の地山面から、北東部はJ 1 層上面、南はD 1 層上面である。

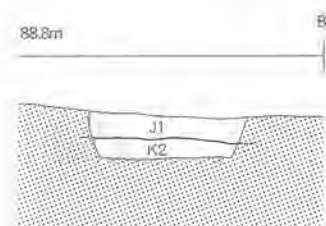
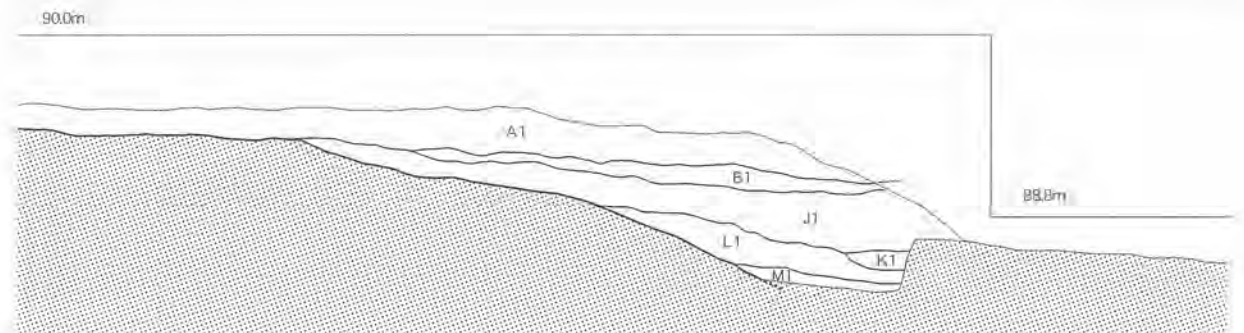
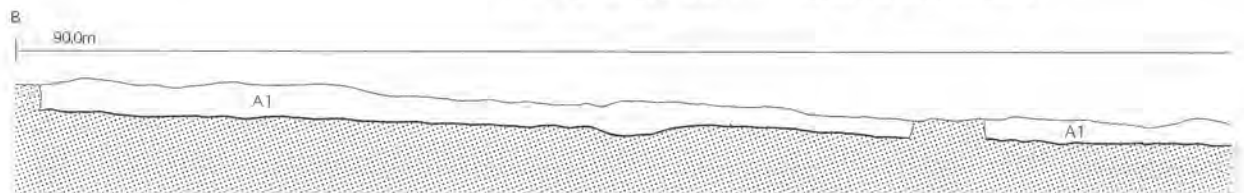


第4図 遺構の配置

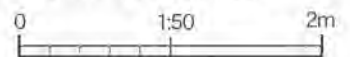




- |    |                    |            |           |
|----|--------------------|------------|-----------|
| A1 | 10YR2/3 黒褐、砂壤土     | 軟らかく、締りはない |           |
| B1 | 10YR2/1 黒、沙質壤土     | 軟らかく、締りは中  |           |
| C1 | 10YR2/3 黒褐、沙質壤土    | 軟らかく、締りは中  | 陶磁器数点、土器  |
| D1 | 10YR5/3 にぶい黄褐、沙質壤土 | 固く、締りは密    |           |
| E1 | 10YR5/4 にぶい黄褐、沙質壤土 | 固く、締りは密    | D1層より固く、密 |
| F1 | 10YR6/8 明黄褐、沙質壤土   | 固く、締りは密    | 火山灰層      |
| G1 | 10YR3/3 暗褐、砂壤土     | やや固く、締りは中  | 炭粒多       |
| H1 | 10YR3/4 暗褐、沙質壤土    | やや固く、締りは密  | 層状の堆積     |
| J1 | 10YR4/4 褐、砂壤土      | やや固く、締りはない | 地山層       |



- |    |                 |           |                 |
|----|-----------------|-----------|-----------------|
| J1 | 10YR4/2 灰黄褐、砂壤土 | やや固く、締りは中 |                 |
| K1 | 10YR4/3 にぶい黄褐   | やや固く、締りは密 | 砂炭層             |
| K2 | 10YR2/1 黒、沙質壤土  | やや固く、締りは密 | 層状。K1、K2の互層状の堆積 |
| L1 | 10YR3/1 暗褐、沙質壤土 | やや固く、締りは密 |                 |
| M1 | 10YR3/4 暗褐、砂壤土  | やや固く、締りは中 |                 |



第5図 調査区土層断面

### 1-3 検出した遺構と遺物

調査区西側の緩斜面から柱穴、土坑、溝跡、小規模な段状遺構が出土している。

そのうち柱穴群は大きく2つのグループに分かれる。北側の規模の大きな柱穴群と、やや間をおいて南側に集中する中～小規模な柱穴群である。

#### 1号掘立柱建物跡（第6図）

北西部に位置し、北東方向に並ぶp1、p2、p3が構成する建物跡である。北東向きの建物の南端の柱列と思われる。全体の規模は不明であるが、検出した梁行は4.0mである。また柱穴の規模は、p1が径90cm×深さ90cm、p2が60cm×80cm、p3が60cm×60cmで、今回出土した柱穴のなかで最大規模のものである。軸方向はp1→p3と直交するN30°Wと思われる。

出土遺物はp1から陶磁器、砥石が出土している（第11図）。

#### 2号柱穴列跡（第6図）

1号掘立柱建物跡の南側に位置し、やはり北東方向に並ぶ柱穴群である。p112、p110、p4、p7とを結ぶ列とp6、p35、p9、p8を結ぶ2列の柱列である。1号建物とほぼ平行して並んでおり、規模もほぼ同じであることから、1号建物跡に属するものと考えたが、柱穴列の方向が少しずれており、建物以外の別の施設を構成するものと判断した。大小の規模の柱が混在しているが、それぞれの新旧については不明である。

遺物は出土していない。

#### 3号掘立柱建物跡（第6図）

1号建物跡から南に5mほど離れた根井沢川寄りに位置する。1号建物と同じ北東向きの建物と思われる。検出した規模は、桁行が半間—1間—1間で5m、梁行が1間—1間で4.2mが確認できたが、梁行の全長は不明である。柱穴の規模は、1号建物に較べてやや小さい。軸方向はp54→p124でN31°Wである。

出土遺物は、p28とp41から炭化物の付着した石板が出土している（第12図）。

#### 4号溝跡、5号溝跡（第6図）

4号溝跡は、3号建物跡の南に位置する。検出面はD1層上面である。等高線と直交して北西から南東に直線状に延びる。規模は、幅約60cm、深さ40cm前後で、底面に不整形の土坑跡を残す。

5号溝跡は、2号柱列の東側に位置し、2号柱列の延長方向に延びている。規模は幅50cm前後、深さ約25cmと4号より小規模であるが、形状は類似する。いずれも小土坑を連ねたような形状である。

遺物は出土していない。

#### 6号、7号小規模段状遺構（第6図）

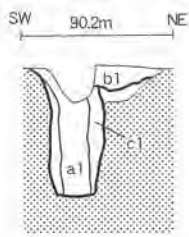
3号建物跡と重なる場所に位置する。3号建物跡の桁方向と平行して直線状に延びる。段差は7cm～9cmで、規模は小さい。切り合いから3号建物跡より古いと思われる。小規模な整地であるが、その用途は不明である。



第6図 掘立柱建物跡、柱穴列跡、溝跡、段状遺構跡

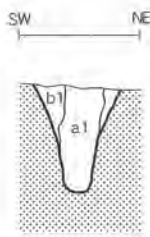






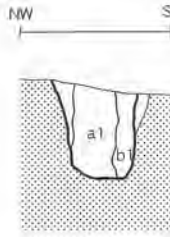
p1

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない  
 b110YR3/3 暗褐、砂壤土 固く、締りは中  
 c110YR4/6 褐、砂壤土 やや固く、締りは中



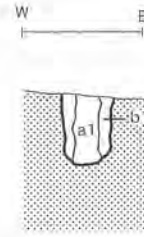
p2

a110YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中



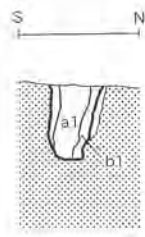
p3

a110YR4/3 に近い黄褐、砂壤土 固く、締りはやや密  
 b110YR3/3 暗褐、砂壤土 固く、締りは密



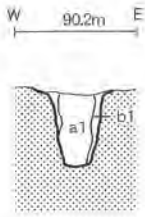
p118

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りは中  
 b110YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りは中



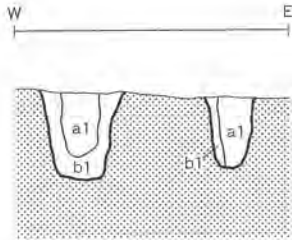
p112

a110YR2/3 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中  
 b110YR2/3 黒褐、明砂壤土 やや固く、締りは中



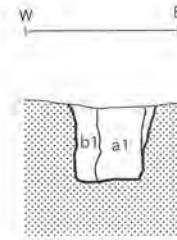
p110

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りは中～疎  
 b110YR3/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りは中～疎



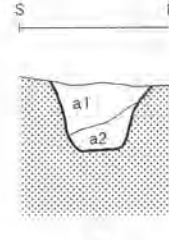
p4

a110YR3/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
 b110YR2/2 黒褐、砂壤土 a110YR3/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 固く、締りはやや密



p7

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りはない



p6

a110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りはない  
 b110YR4/4 褐、砂壤土 やや軟、締りはない



p35

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
 b110YR3/2 黒褐、砂壤土 固く、締りは中



p9

a110YR3/4 暗褐、砂壤土 固く、締りは中  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中



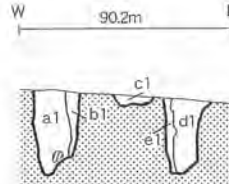
p8

a110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りはない  
 b110YR3/2 黒褐、砂壤土 締りは中



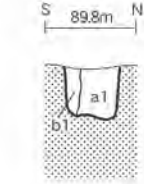
p120

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
 b110YR3/3 暗褐、明砂壤土 やや固く、締りは中



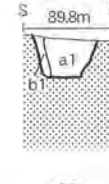
p13

a110YR3/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りはない  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 固く、締りは中  
 c110YR3/4 暗褐、砂壤土 固く、締りは中  
 d110YR3/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
 e110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中



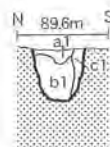
p33

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない  
 b110YR3/2 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない



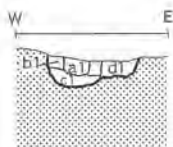
p32

a110YR3/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中  
 b110YR3/3 暗褐、砂壤土 散らかく、締りはない



p31

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 散らかく、締りはない  
 b110YR2/2 黒褐、砂壤土 締りは中  
 c110YR3/2 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない



p124

a110YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中～疎  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中～疎  
 c110YR3/4 暗褐、砂壤土 固く、締りは密  
 d110YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中



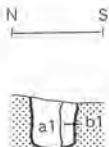
p45

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
 b110YR2/3 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない



p27

a110YR3/2 黒褐、砂壤土 締りはない  
 b110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中



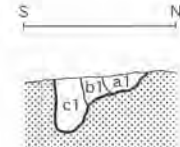
p54

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない  
 b110YR3/2 黒褐、砂壤土 固く、締りは中～密



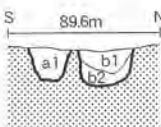
p29

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りはない  
 b110YR2/3 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはない  
 c110YR3/3 暗褐、砂壤土 固く、締りは中～密



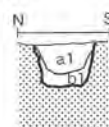
p61

a110YR2/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中  
 b110YR4/3 に近い黄褐、砂壤土 やや固く、締りは中  
 c110YR2/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中



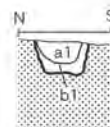
p37

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
 b110YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
 b210YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中



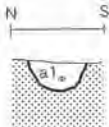
p34

a110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中  
 b110YR2/3 黒褐、砂壤土 散らかく、締りはやや密



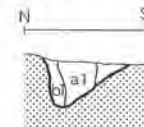
p36

a110YR 2/2 黒褐、砂壤土 締りはない  
 b110YR 3/3 暗褐、砂壤土 固く、締りは中～密



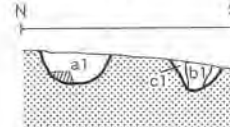
p44

a110YR 2/2 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない



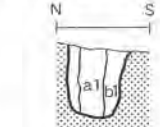
p43

a110YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
 b110YR3/3 暗褐、砂壤土 やや軟、締りはない



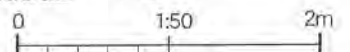
p41

a110YR2/3 黒褐、砂壤土 固く、締りは中～密  
 b110YR3/2 黒褐、砂壤土 締りは中～密  
 c110YR2/2 黒褐、砂壤土 固く、締りは密

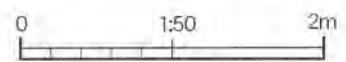
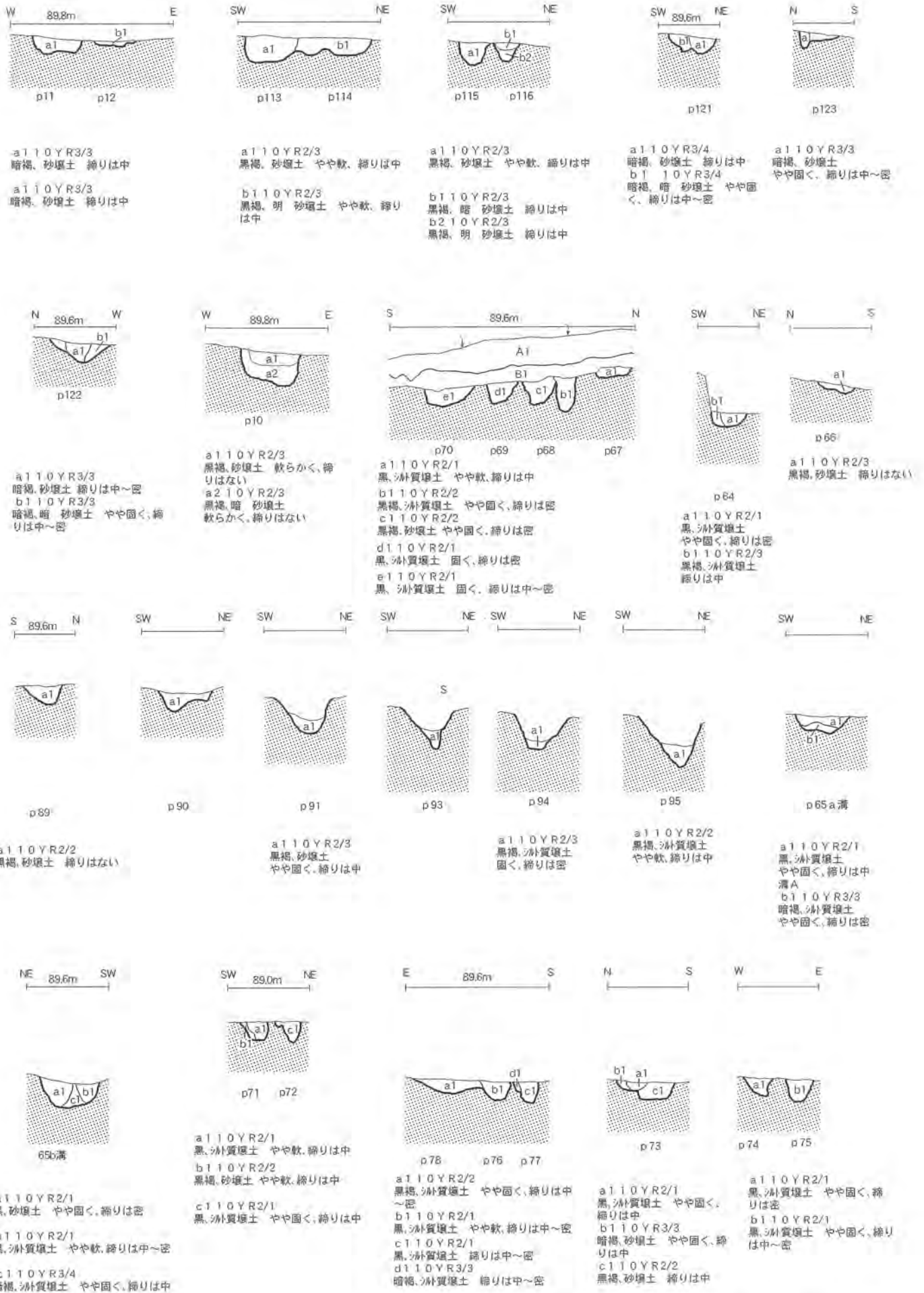


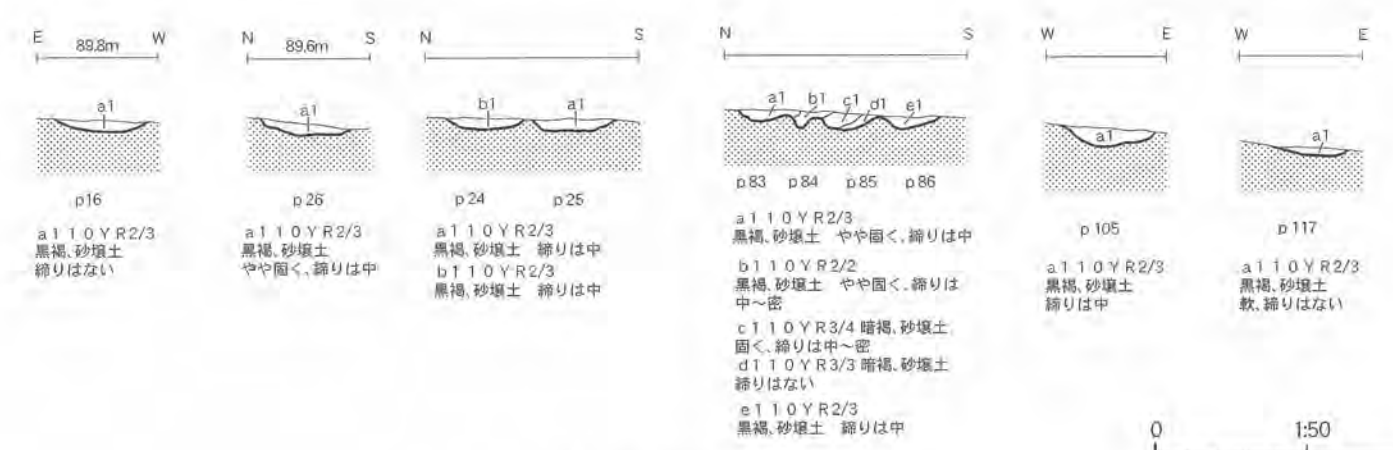
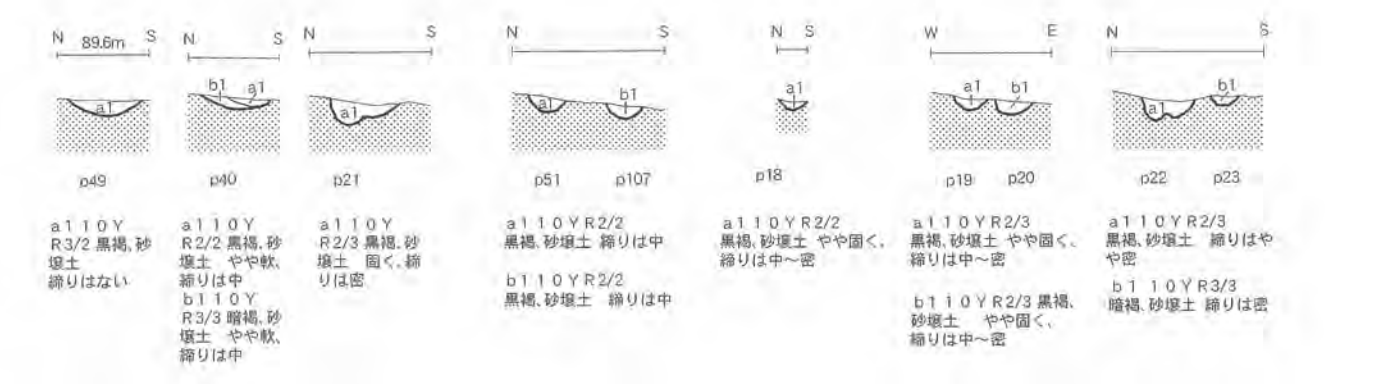
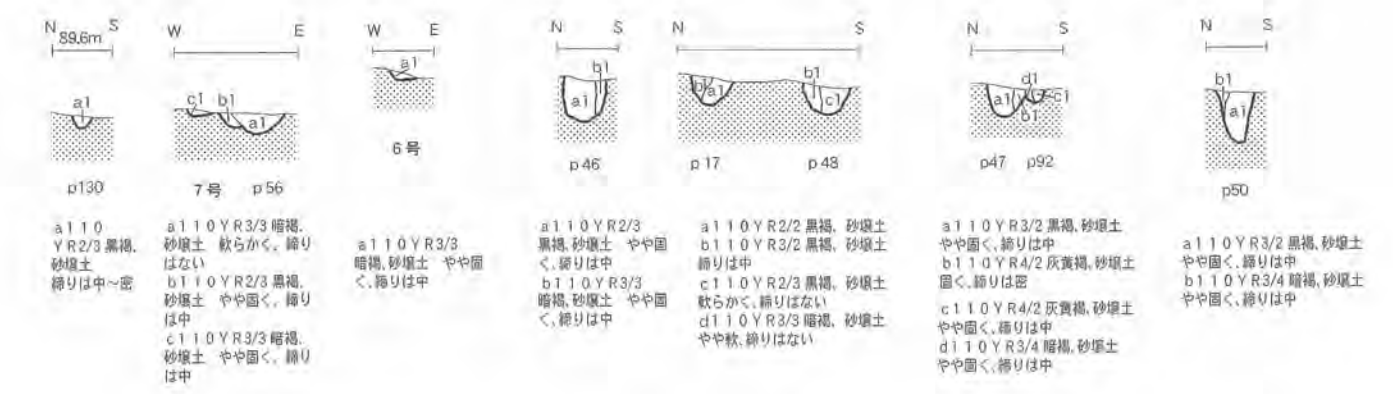
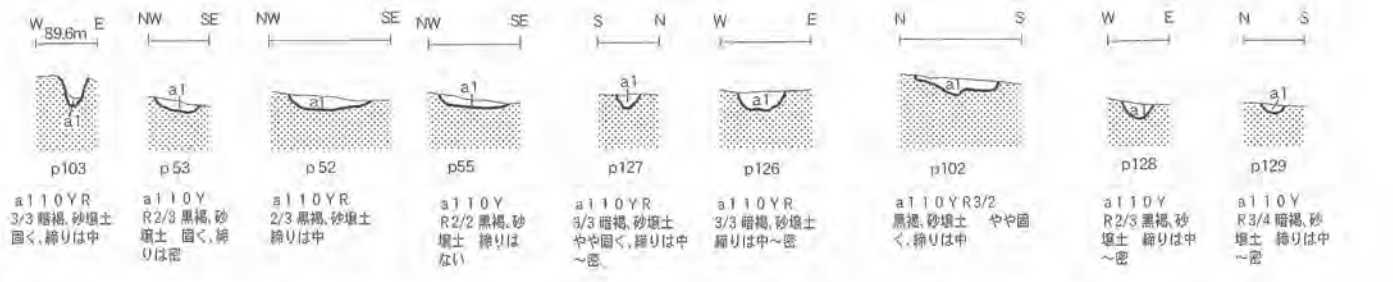
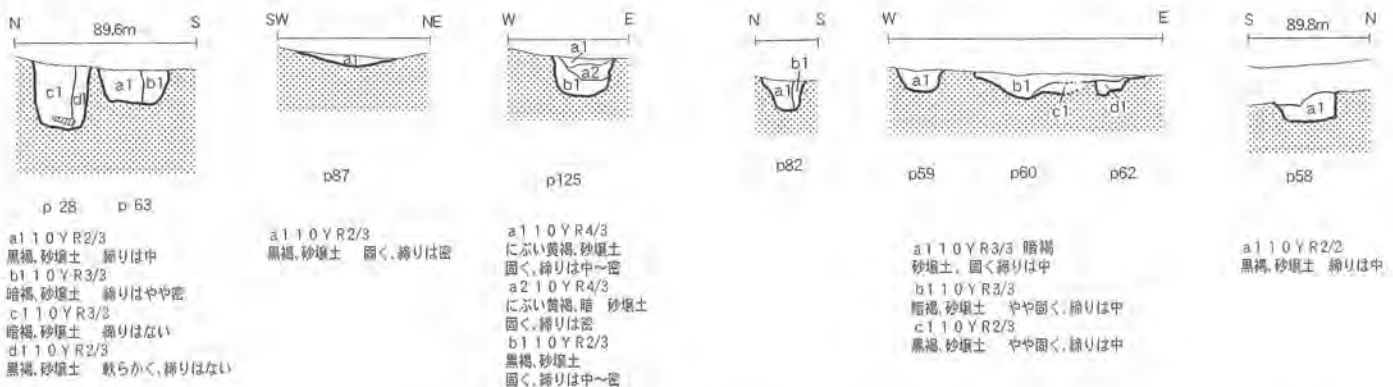
p57

a110YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中  
 b110YR2/2 黒褐、砂壤土 固く、締りは中～密

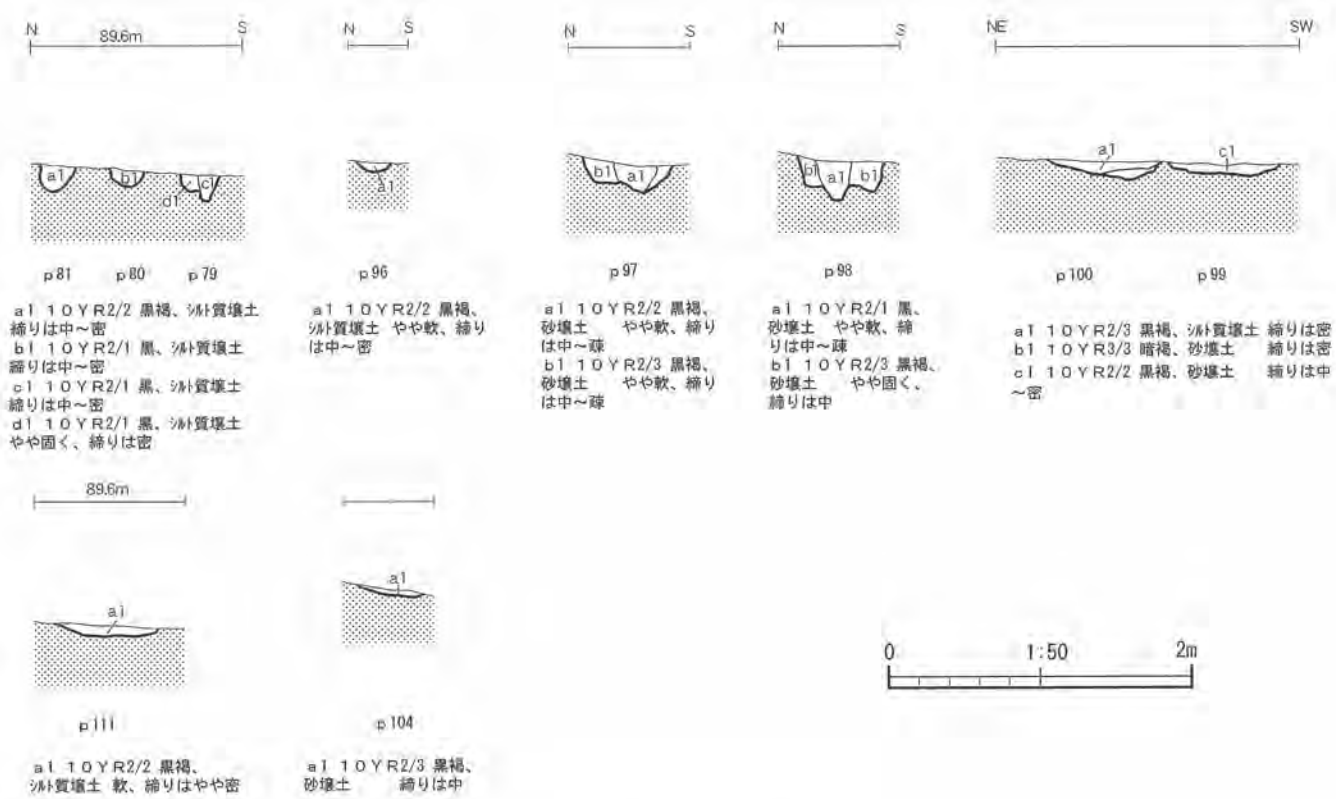


第7図 柱穴、土坑跡断面 (1)

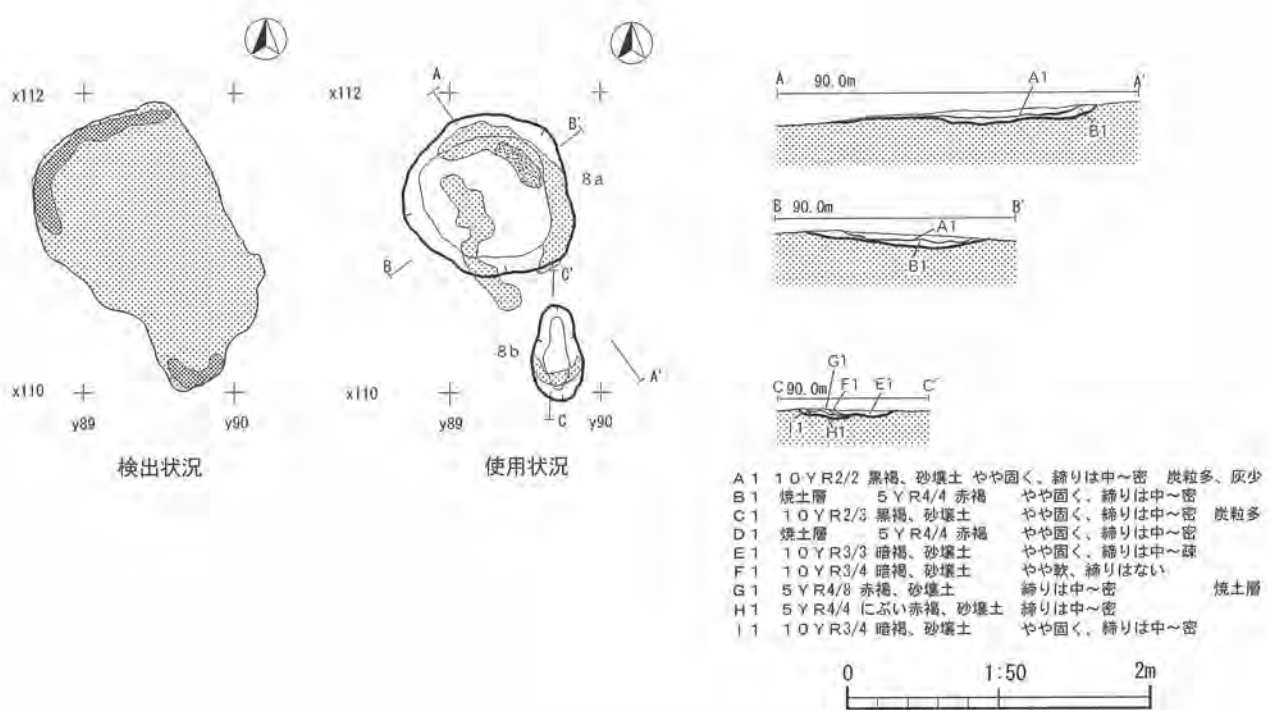




第9図 柱穴、土坑跡断面 (3)



第10図 柱穴、土坑跡断面 (4)



第11図 8号焼土遺構

## 8号焼土（第11図）

2号柱列跡と重なるが、出土状況から柱列跡より新しい時期のものである。浅く掘りくぼめただけの簡単な、大小二つの炉跡である。8aは、平面形が不整円形で、1.2m×1.1m、深さ8cmである。2時期にわたって使用されたことが確認された。8bは、平面形は不整楕円形で、62cm×32cm、深さ4cmである。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

## 出土遺物（第12、13図）

出土遺物は、数が少なかったため、種別ごとに一括して載せた。

1～9は陶磁器である。1、2は染付磁器の碗である。1はp1から出土した碗である。やや厚手で、内湾しながら立ち上がる。外面に梅花文を描く。高台内に文様あり。肥前産で、いわゆる「くらわんか手」である。18世紀前半～中葉に伴う。2は碗の口縁部に草文を施したものである。国産磁器で、産地年代は不明である。3は、内外面に草文を描く皿である。肥前系で18世紀後半から19世紀に伴う。

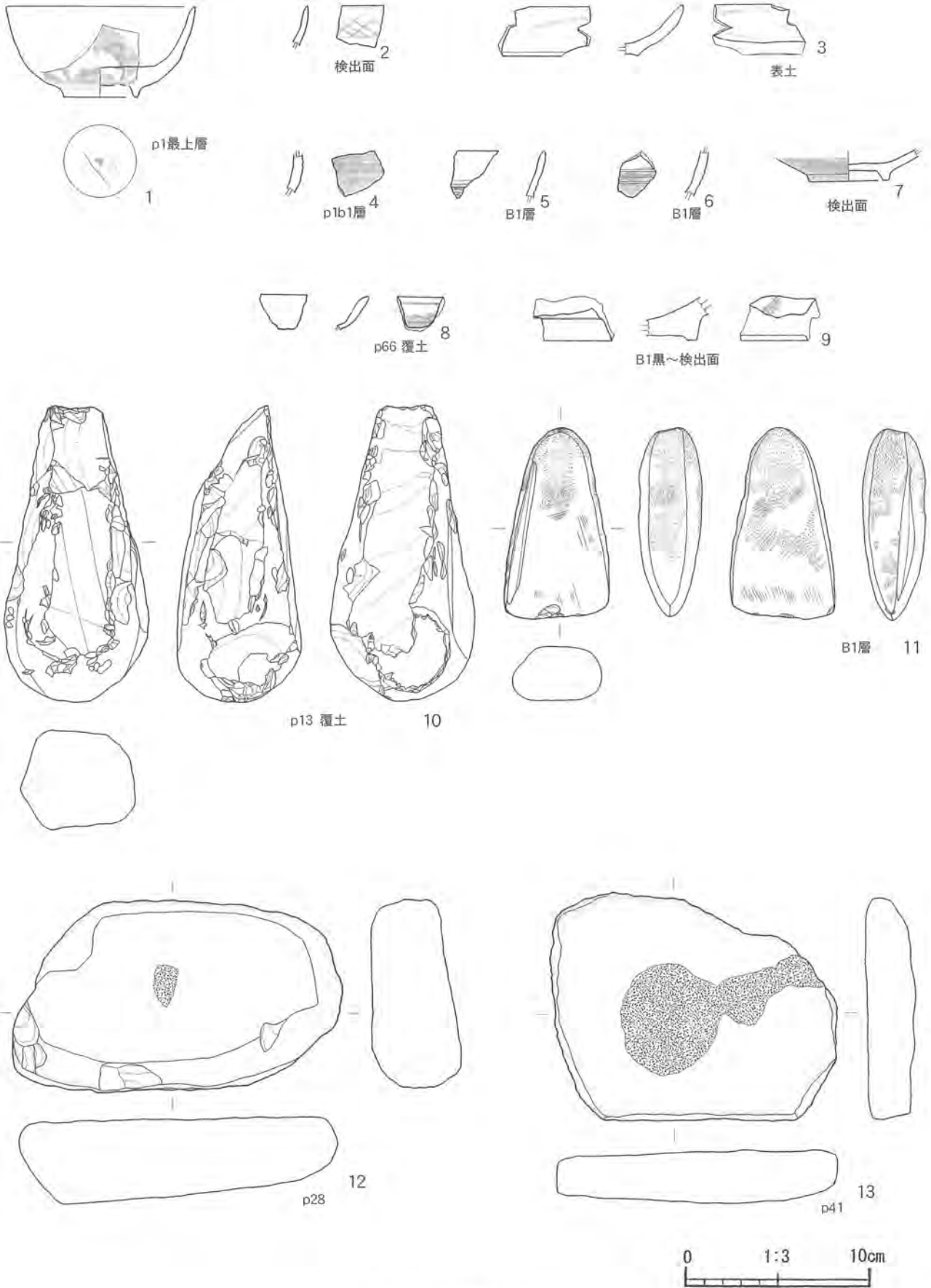
4～9は施釉陶器である。4～7は、腰部から下を鉄釉、上を灰釉で塗り分けた「塗り分け碗」である。4はp1から出土したものである。瀬戸美濃産で、18世紀後半に伴う。8は、内外面に草文を施した皿の口縁部である。瀬戸美濃系で18世紀代に伴う。9は浅鉢の底部である。やや灰色を帯びた釉に鉄絵で草文を描く。瀬戸美濃系のものと思われる。

10、11は磨製石器である。10は先端部を搗粉木状に成形した敲打磨石である。p13から出土したもので、建物跡に伴うものと思われる。11はB1層から出土した石斧である。頭部は丸みをもち、胴部下半が広く、刃縁は直線に近い。12、13は3号建物跡に伴う小土坑p28、p41から出土した石板である。いずれも中央部に炭化物が付着しており、台として使用されたものと思われる。12は磨かれた平滑面をもつ。

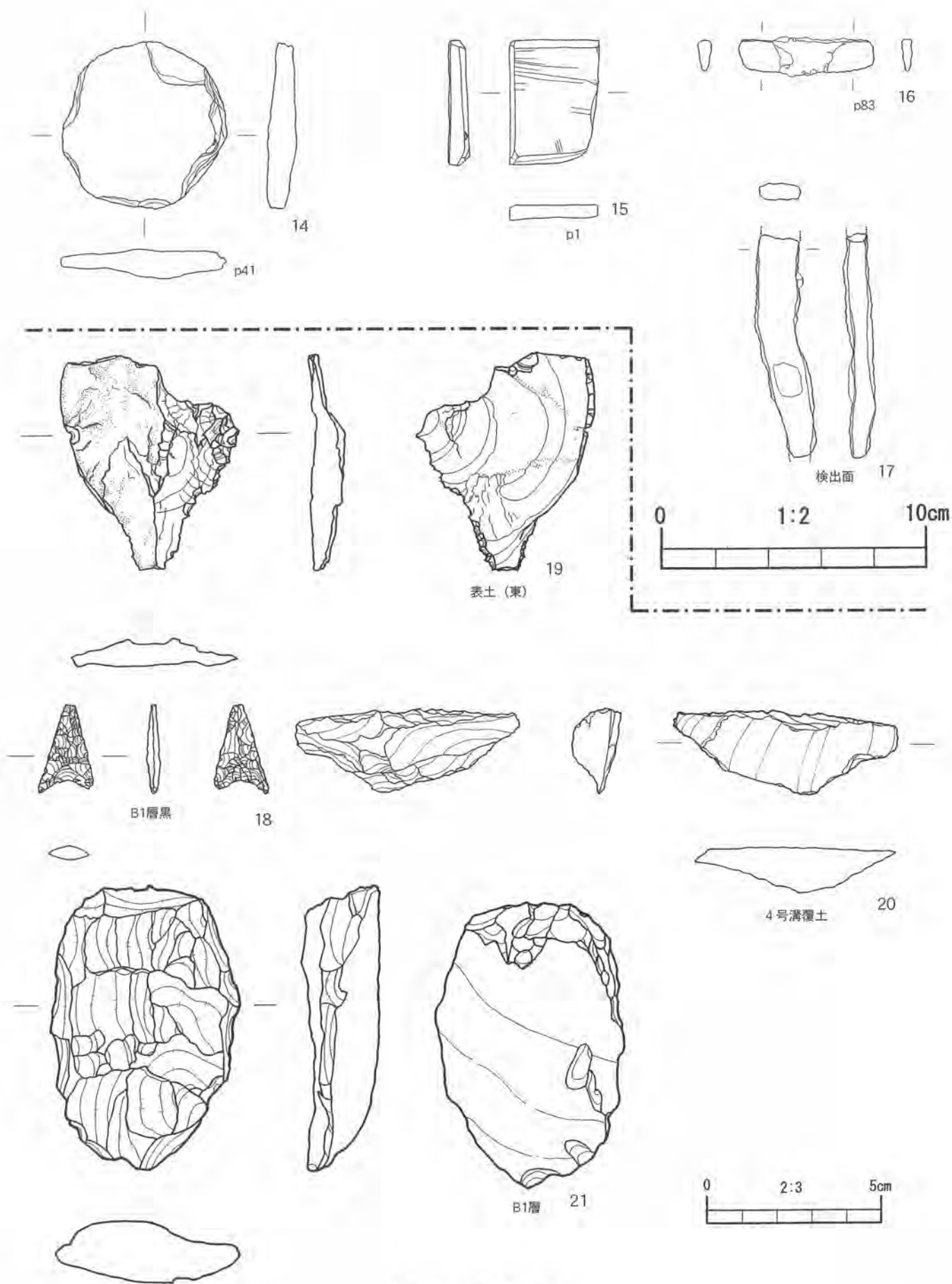
14、15は石製品である。14は円盤状の製品であるが、用途は不明である。15はp1から出土した砥石である。

16、17は鉄製品である。16は刃子状の刃部である。16はやや大きな角釘の胴部で、船釘と思われる。

18～21は剥片石器である。18は凹基、二等辺三角形型の石鎌である。18、21は不定形の石器である。19、20は逆三角形の形状をもち、側縁に刃を作り出している。21は篋状で、丸みをもつ。内面を抉り、背面に自然面を残す。



第12図 出土遺物(1)



第13図 出土遺物(2)

## 1-4 調査のまとめ

調査区西側の緩斜面で掘立柱建物跡が2棟、2列の柱穴列跡が確認された。いずれも一部の調査なので全体の規模は不明であるが、いずれの建物も柱間寸法は2m(6.6尺)を間尺にして建てられていることは確認できた。

遺構の配置についてみると、2号柱穴列を挟んで、規模の大きな1号建物が山寄りに、中小規模の柱穴で構成された3号建物跡が川寄りに位置している。3号建物の西側には墓所があり、それを含めてみれば、墓所を背にして規模の大きな1号建物が立ち、やや離れて規模の小さな3号建物が並ぶという、「母屋」と「作業場」を分離したような配置が考えられる。

時期については、出土遺物が少ないので特定するのはかなり難しい。1号建物の柱穴p1から出土した陶磁器を手掛かりとすれば18世紀後半から19世紀にかけてという年代が考えられる。

伝承など文献資料を含めた検討が今後の課題である。



写 真 图 版





調査区遠景（南から）



調査区遠景（西から）

## 写真図版 2



調査区全景（東から）



土層堆積状況（東から）



北西部検出状況（南から）



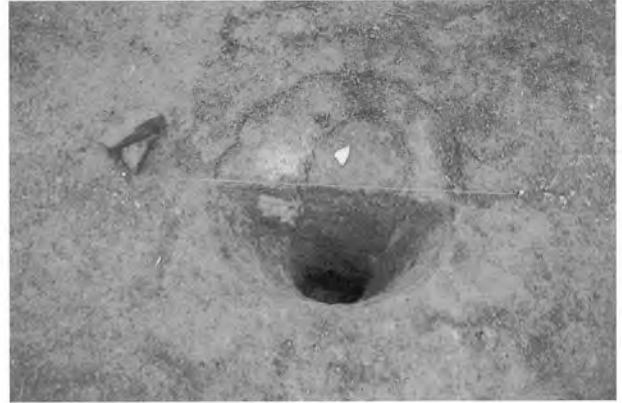
南部土層堆積状況



南西部検出状況



柱穴 P1



柱穴 P2



柱穴 P3



柱穴 P4



土坑 P41



4号溝跡



8号焼土検出状況



8号焼土断面

写真图版 4



12-1



12-2



12-3



13-17



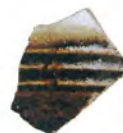
13-15



12-8



12-5



12-6



12-9



13-16



13-14



12-10



12-11



12-12



12-13

## 2. 沼里遺跡





# 沼里遺跡

## 2-1 調査要旨

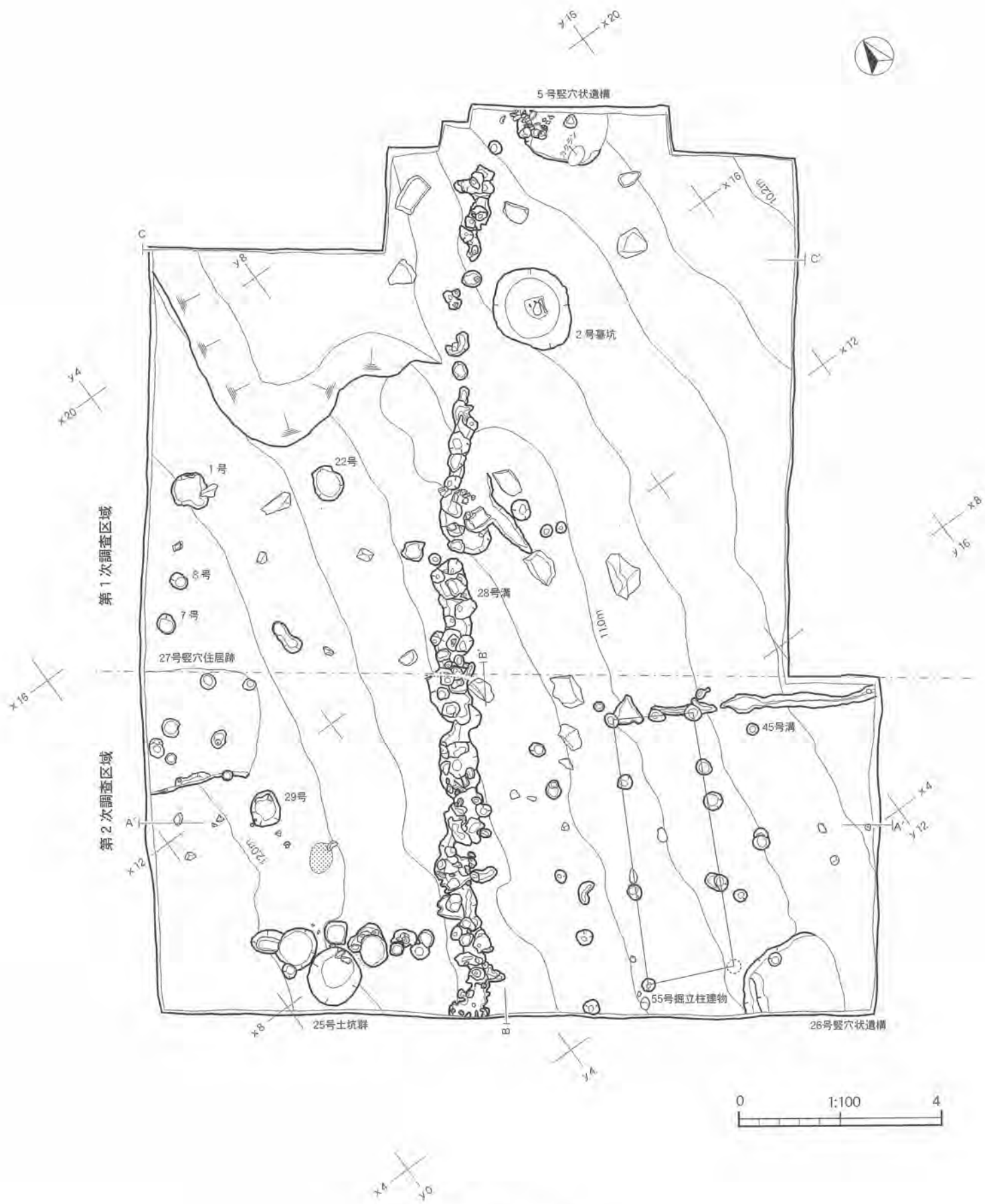
遺跡名 沼里遺跡（遺跡コード LG53-1225）  
調査地点 宮古市大字津軽石第6地割沼里9番10  
調査面積 219㎡  
調査期間 第1次調査 平成12年7月4日～同年7月28日  
第2次調査 平成13年8月9日～同年9月4日  
検出遺構、遺物 縄文時代 竪穴状遺構、土坑群 土器、石器  
古代 竪穴住居跡 土師器 須恵器、土製品  
近世 掘立柱建物跡 墓坑跡、溝跡 陶磁器、鉄製品、銭貨

## 2-2 遺跡の立地と基本層序

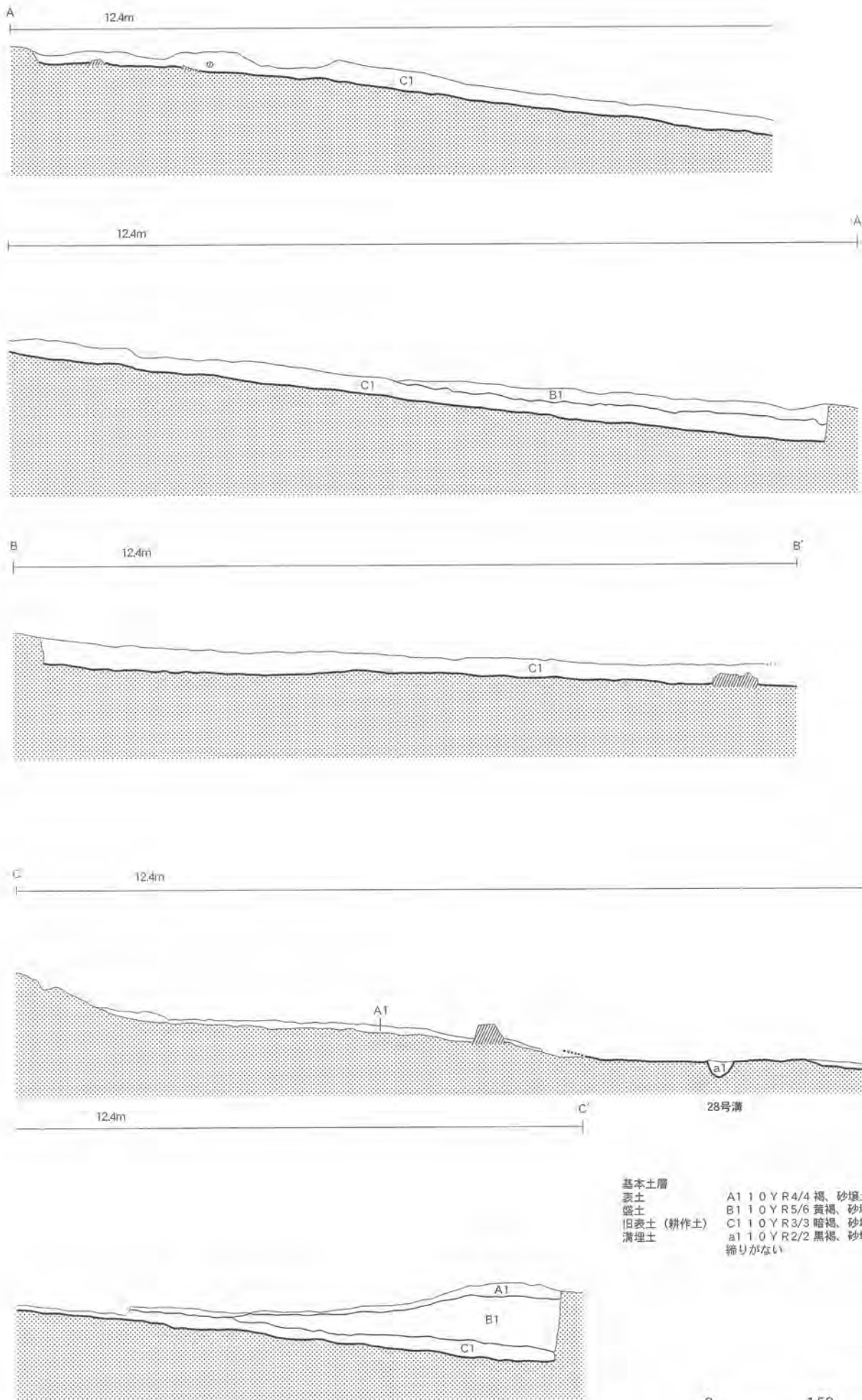
宮古湾頭をU字状に豊間根丘陵が囲み、津軽石川がその丘陵を二分している。本遺跡は、津軽石川の西にできた沖積平野の丘陵寄りに位置する。丘陵から津軽石川にいくつかの小河川が流れ込んでいるが、調査地区はその沢の傍らに位置する傾斜地である。調査区の南側は、現在は宅地や畑に利用されているが、もともとは沼里の「沼」の由来になったと思われる湿地であったとのことである。また、調査区は以前畑地として使用されていたが、現状では宅地造成のために擁壁を設けられており、その建設の際調査区の北側の一部を削り盛土にあてていた。



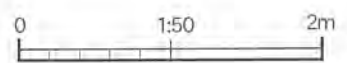
第14図 周辺の地形



第15図 遺構の配置



基本土層  
 表土 A1 1 0 Y R 4/4 褐、砂壤土 軟らかく締りがない  
 盛土 B1 1 0 Y R 5/6 黄褐、砂壤土 固く、締りは中  
 旧表土 (耕作土) C1 1 0 Y R 3/3 暗褐、砂壤土 固く、締りは中  
 清埋土 a1 1 0 Y R 2/2 黒褐、砂壤土 軟らかく締りがない



第16図 調査区土層断面

### 基本層序（第16図）

A1層は表土層である。B1層は、宅地を造成した際の盛土層である。C1層は旧表土層（耕作土）である。ほぼ全域に分布し、縄文、古代、近世の遺物を含む。

## 2-3 検出した遺構と遺物

### a. 縄文時代の遺構

#### 26号竪穴状遺構（第17図）

調査区の南に位置する。全体を検出していないが、平面形は隅丸の不整な方形と思われる。規模は東西2mである。床面の西端で段差を、北側で柱穴を検出したが、焼土遺構などは出土していない。埋土層は、シルト質の黒色土が基本土である。

#### 出土遺物（第18図 1～4）

1は、深鉢の体部片で、繊維を含む。2は破損した敲打磨石の磨面の部分である。3、4は不定形の石器である。三角形の底部の側縁に刃部を作り出している。

#### 25号土坑群（第17図）

調査区南西部に位置する。検出の段階で周辺が1、2層で覆われ、当初竪穴住居跡と思われたが、大小の土坑群であることが判明した。検出面は3層上面である。平面形は、25dを除いて円形である。25dは隅丸の方形である。規模は、もっとも大きい25aが径1.1m×深さ0.4mである。土坑の埋土層は、シルト質の密な黒褐色土、暗褐色土が主体である。

#### 焼土遺構（第17図）

25号土坑群の北に位置する。平面形は楕円形、規模は60cm×40cmである。薄い焼土層が確認されたが、石組などの施設は検出していない。

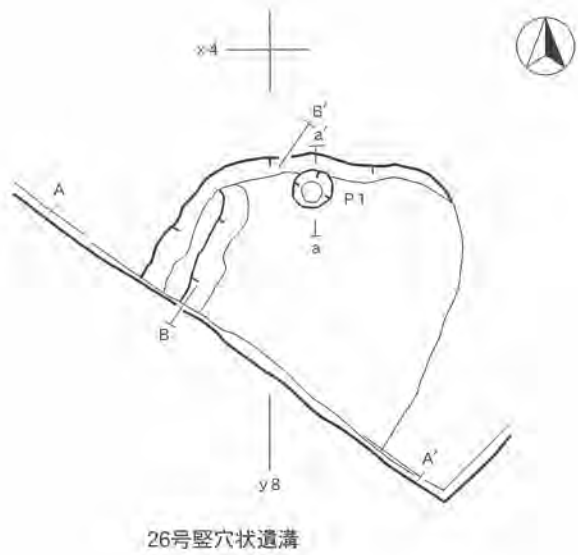
#### 出土遺物（第18～20図）

5、6は1～2層出土の弥生土器である。浅鉢の口縁部である。

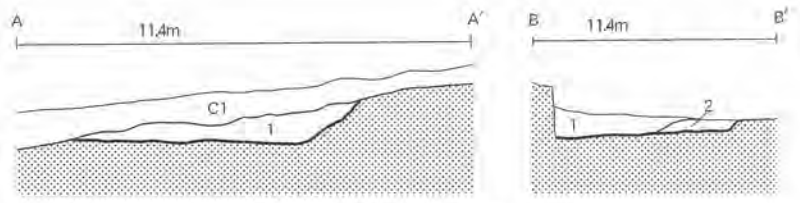
7～12は深鉢の口縁部、体部片である。8～12は繊維を含む。8～10は土坑内からの出土である。

13～22は剥片石器である。13は石鏃である。平基で側縁が丸み、背面は未加工である。14～21は、いずれも底部に三角形の張り出しをもち、その側縁を加工して刃部を作り出している。22は篋状で、丸みをもつ。片面の周縁部を加工し刃部を作り上げ、背面に自然面を残す。

23～25は礫石器である。いずれも磨面と調整面をもつ敲打磨石である。



26号竖穴状遺溝

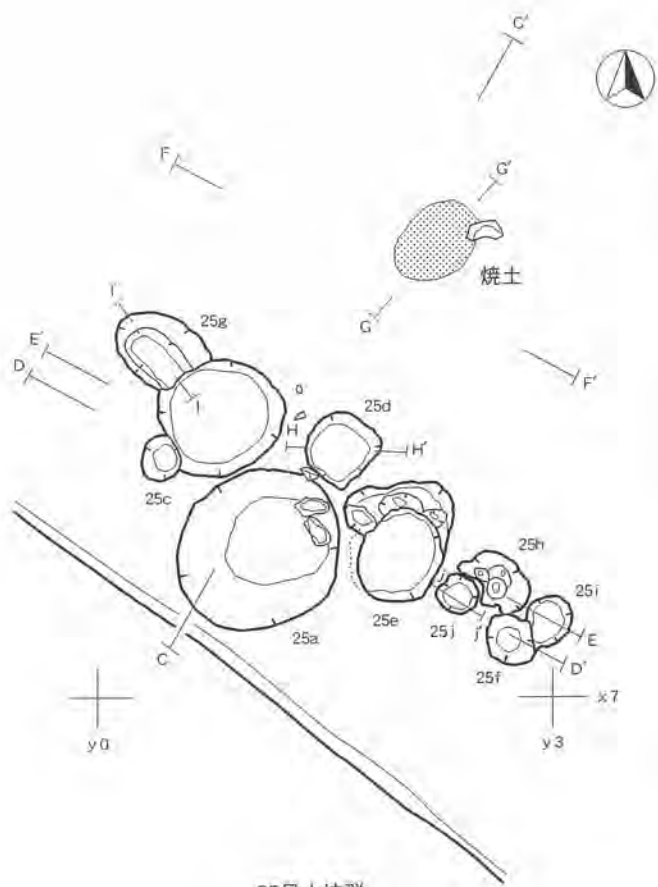


1 10YR2/1 黒、沖質壤土 やや軟、締りは中～密  
 2 10YR2/2 黒褐、砂壤土 締りは中

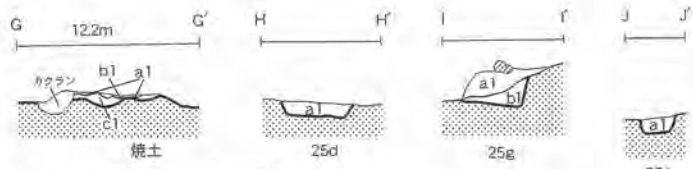
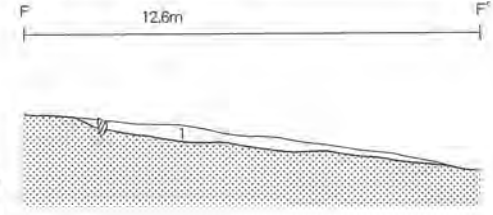
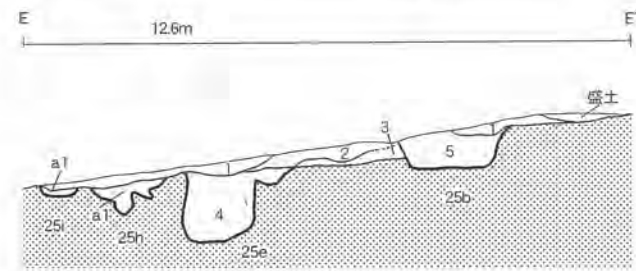
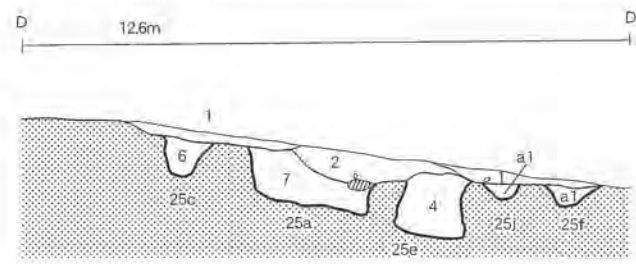
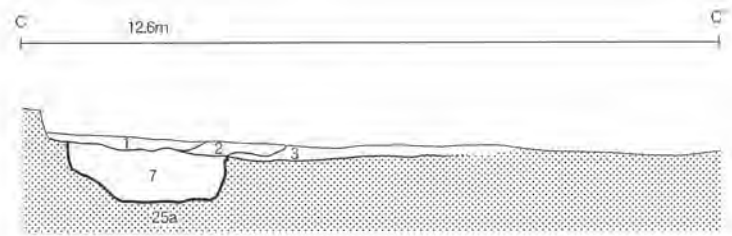


a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは弱い  
 b1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中

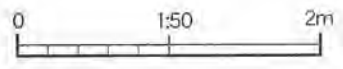
P1

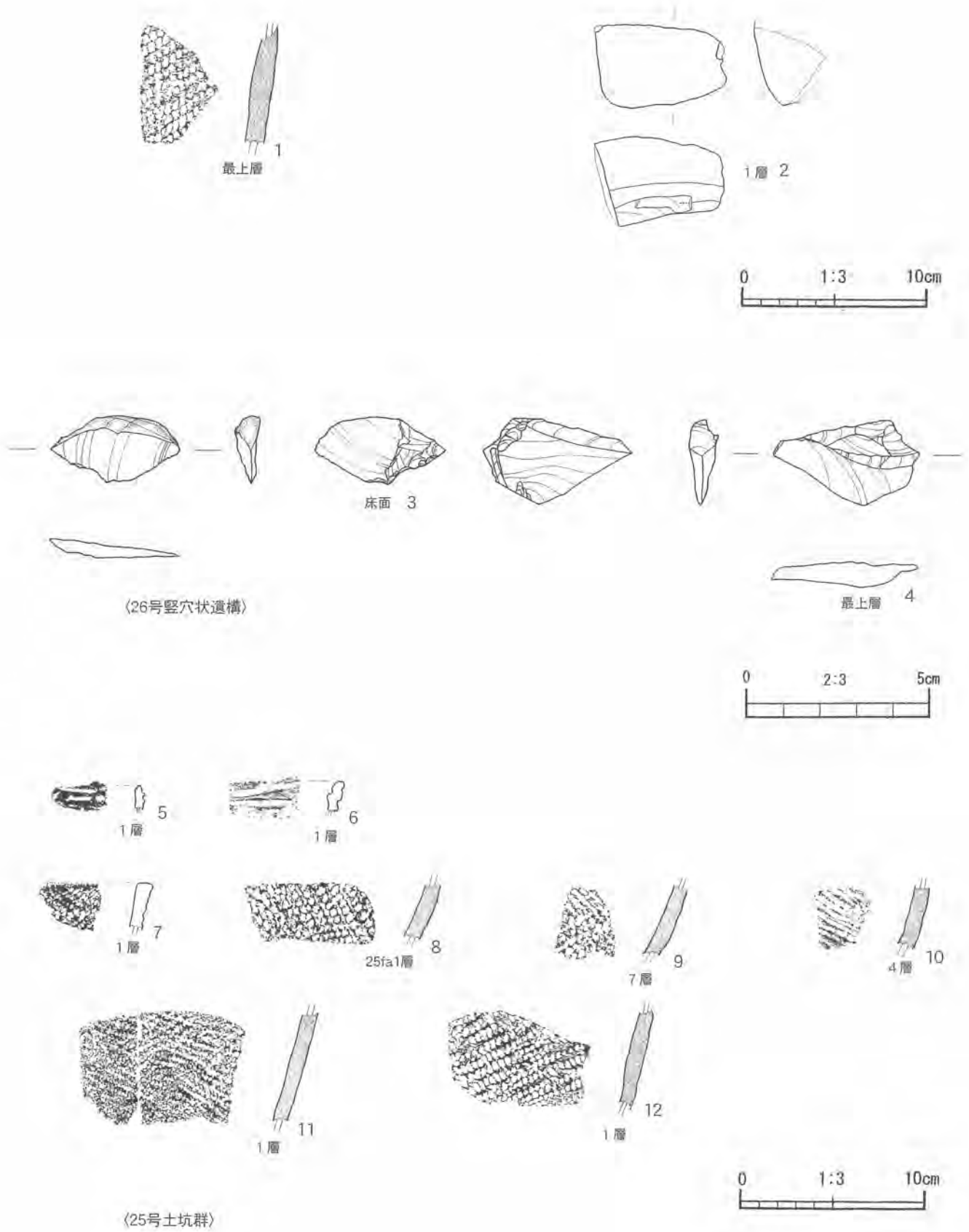


25号土坑群

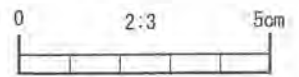
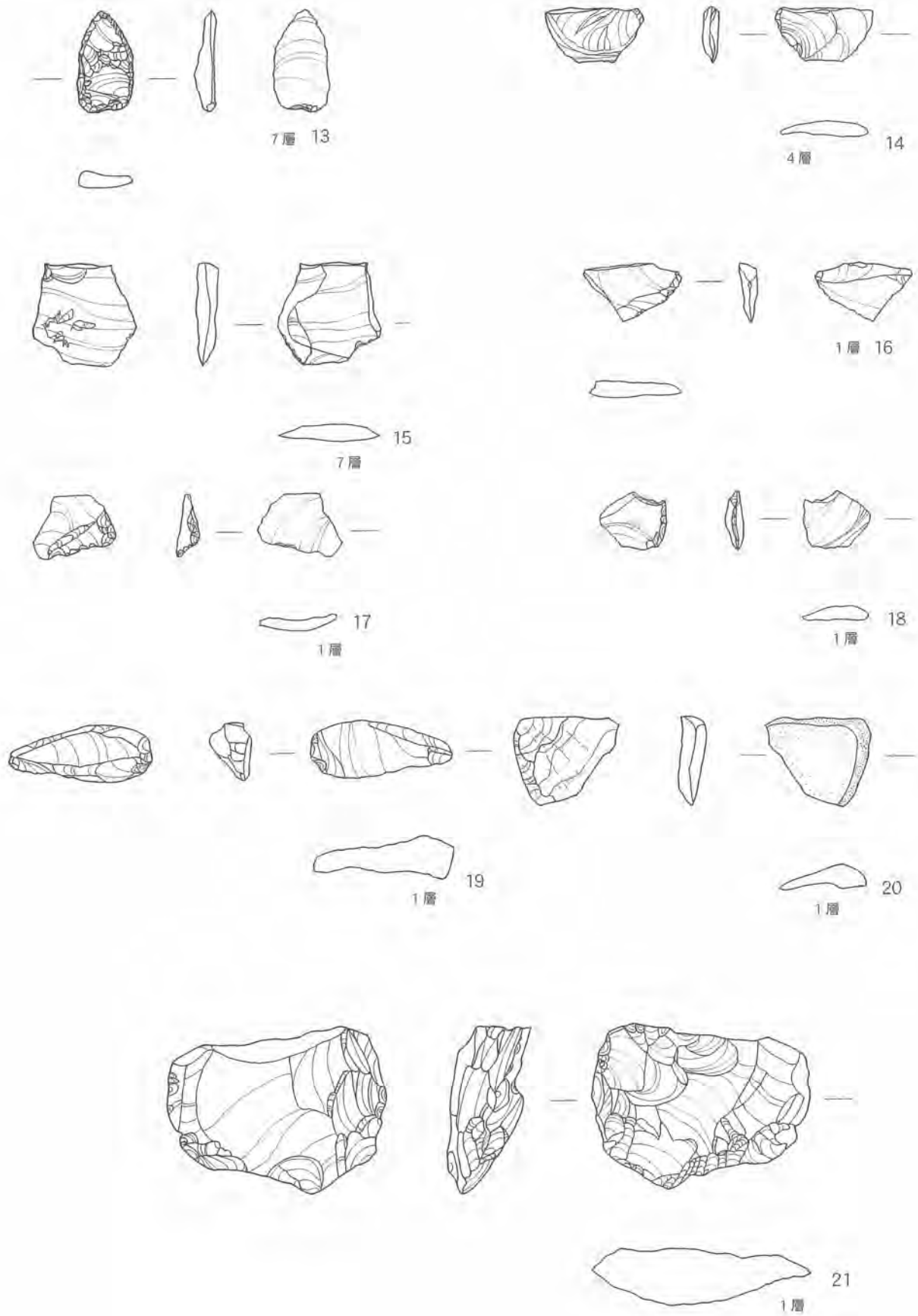


- 1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中 焼土粒微量
- 2 10YR3/2 黒褐、沖質壤土 軟らかく、締りは中 焼土粒少量
- 3 10YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中 縄文、石器
- 25e 4 10YR2/2 黒褐、砂壤土 締りは中
- 25b 5 10YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中
- 25c 6 10YR2/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中
- 25a 7 10YR2/1 黒、沖質壤土 軟らかく、締りは中 焼土塊多
- 25e a1 10YR3/3 暗褐、沖質壤土 やや軟、締りはない
- 25d b1 10YR2/2 黒褐、沖質壤土 やや軟、締りは弱
- 25d a1 10YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中
- 25j a1 10YR2/2 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中
- 焼土 31 a1 7, 5YR4/4 褐、砂壤土 やや固く、締りは密、赤褐の焼土を含む
- b1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中～密 焼土塊少
- c1 10YR4/6 褐、砂壤土 やや固く、締りは中～密

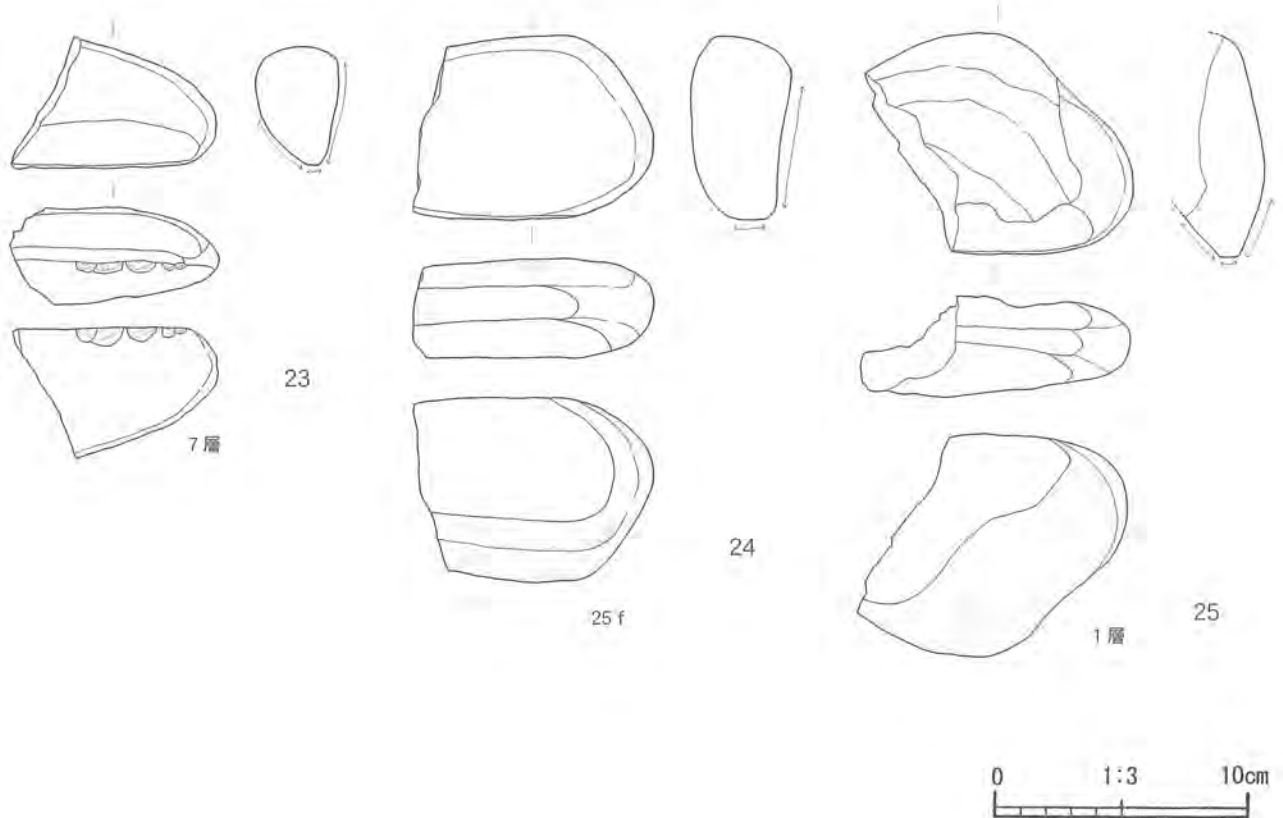
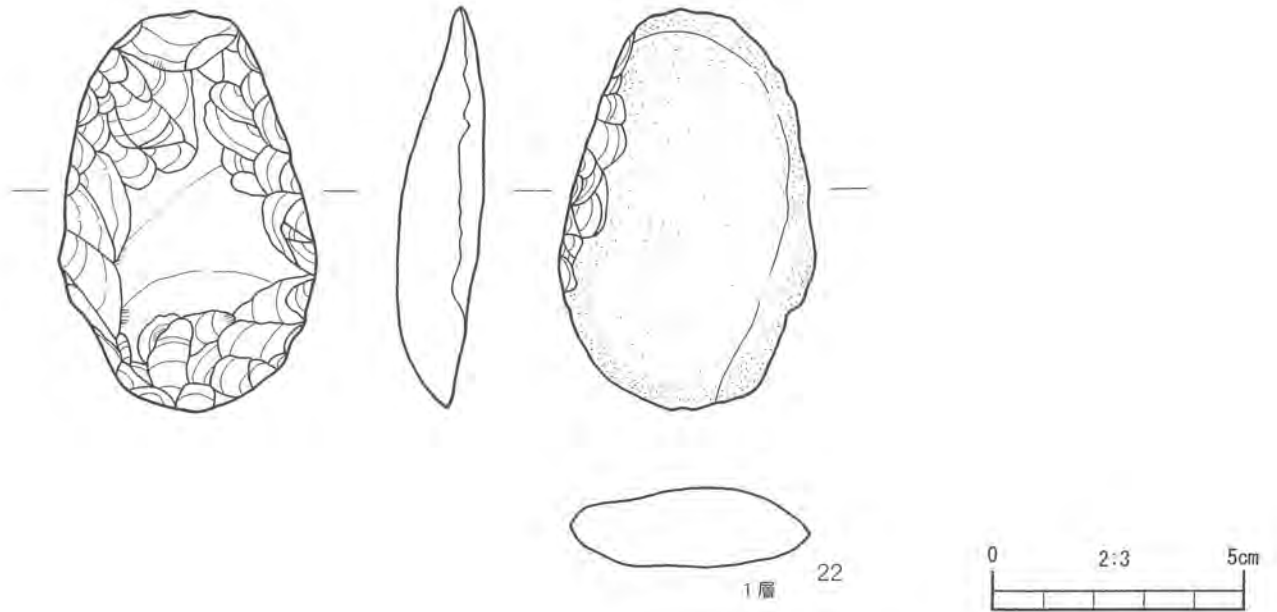




第18图 26号竖穴状遺構、25号土坑群出土遺物（1）



第19图 25号土坑群出土遗物(2)



第20図 25号土坑群出土遺物（3）



## b、古代の遺構

調査区西側の標高値の高い場所に位置する竪穴住居跡と土坑群である。

### 27号竪穴住居跡（第21図）

調査区西側のほぼ中央に位置する。上部はかなり削られており、壁高は15cmばかりである。平面形は隅丸方形と思われる。規模は南北で2.5mである。床面から柱穴、小土坑、壁際で溝跡を検出した。カマド、焼土などは出土していない。埋土層は黒褐色土を主体とする砂壤土である。

遺物は出土していないが、竪穴の形状、位置、後述する周辺の土坑と埋土層が類似していることなどから古代の遺構と判断した。

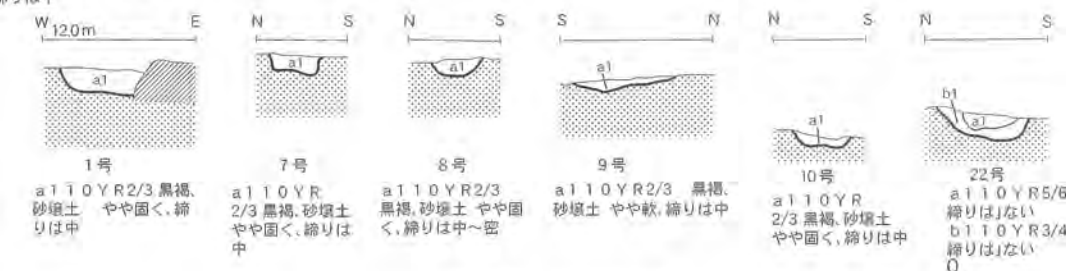
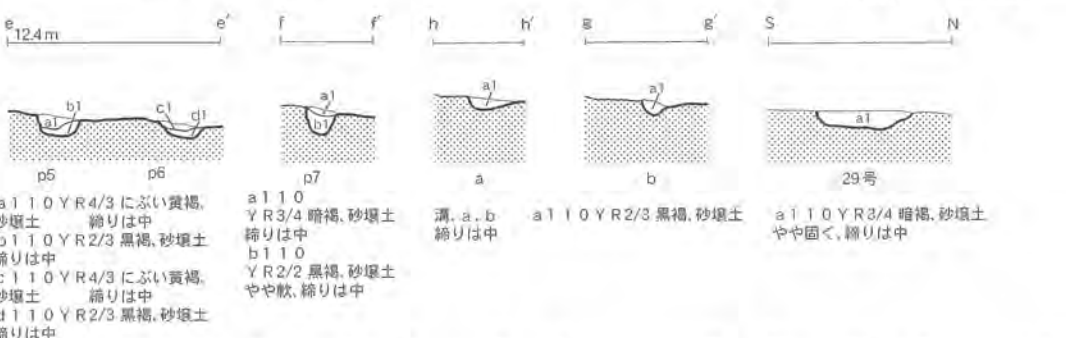
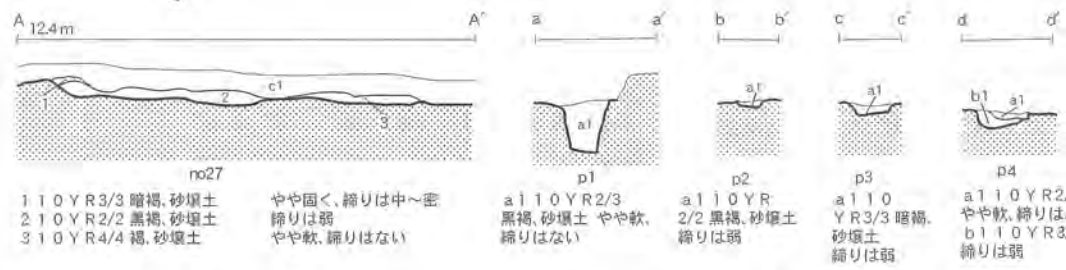
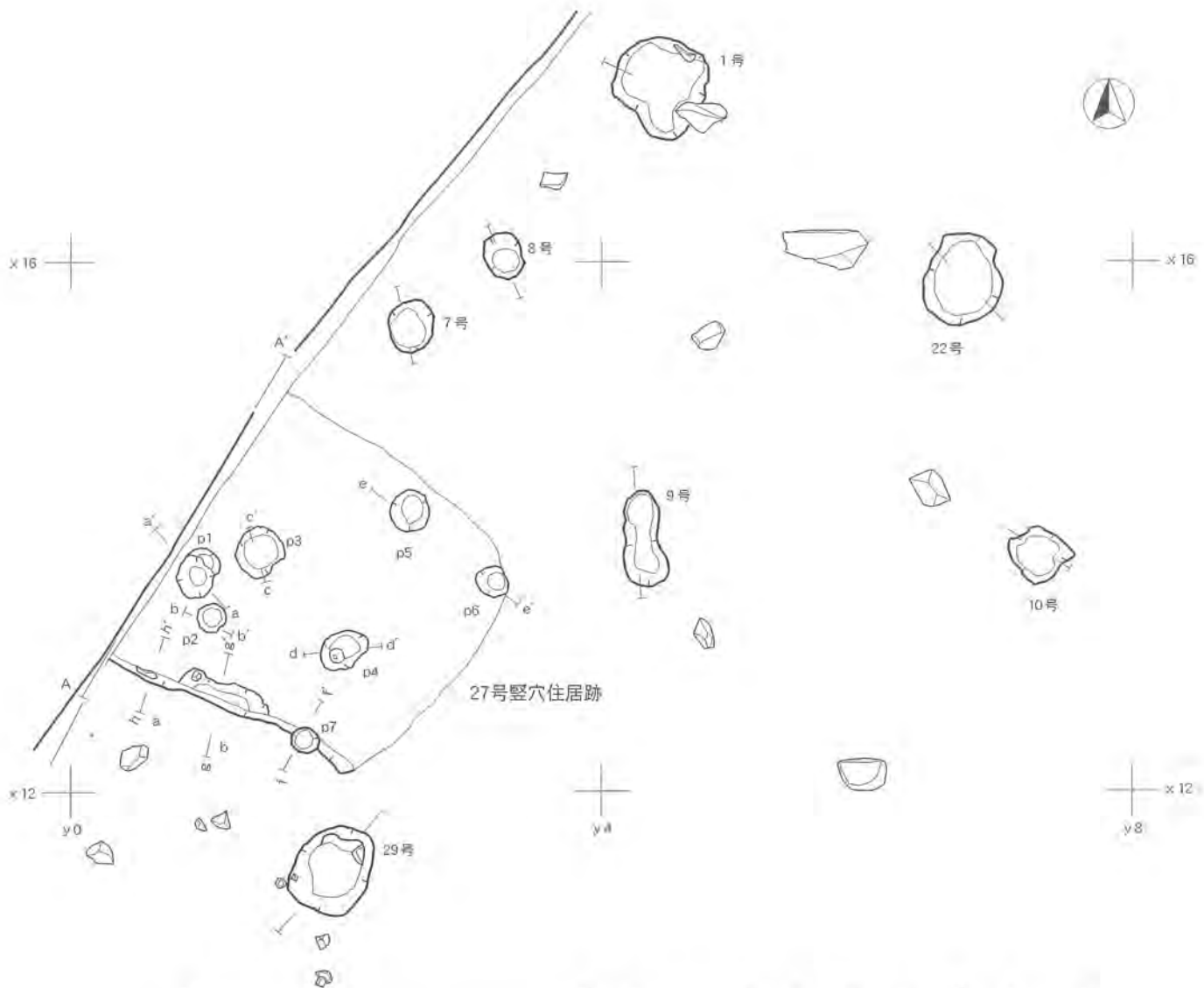
### 27号住居跡の周辺部の土坑群（第21図）

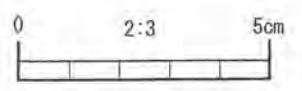
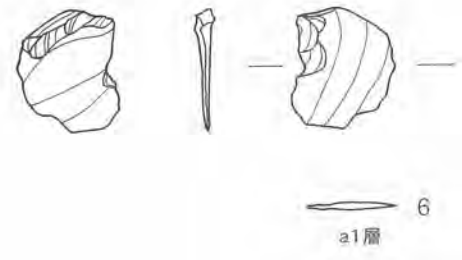
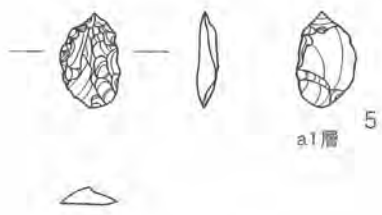
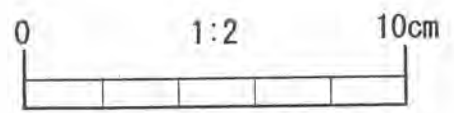
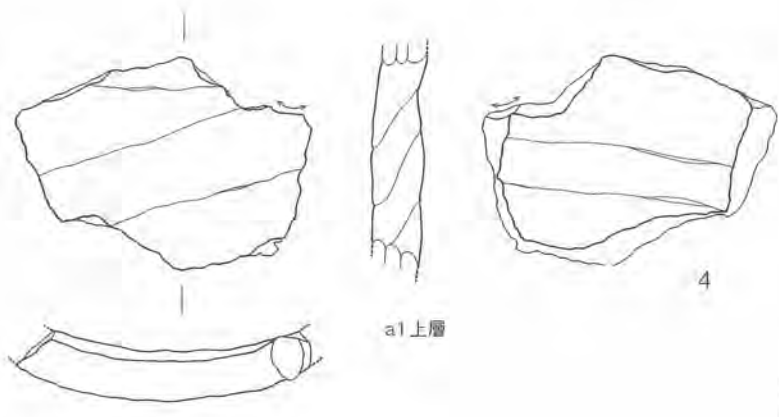
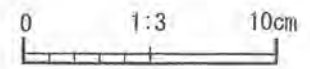
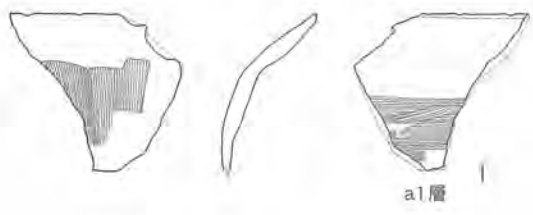
27号住居跡の周辺部で中小の土坑が検出している。配置、覆土層はいずれも黒褐色土を主体としていることなどから同時期のものと判断した。そのなかでも27号住居跡の北に位置する1号土坑跡からはまとまった遺物が出土している。

### 出土遺物（第22図）

1、2は土師器甕の口縁部である。外反して直線的に立ち上がる。3は土師器の坏の体部片である。内黒処理を施され、外面下段に段差を持つ。外面はミガキ調整である。4は土製品である。湾曲の度合いからやや大きめの筒型の製品と思われる。矢印の部分は成形痕が残っている部分で、孔跡などが想定される。両面に明瞭な輪積痕をもち、全体が赤褐色に焼けている。

5、6は剥片石器である。5は石鏃である。平基で、側縁は膨らむ。6は不定形の石器で、直線状の側縁に刃部を作り出す。





第22図 1号土坑跡出土遺物

### c. 近世の遺構

調査区の中央部を、南西から北東に延びる28号溝跡を境にして東側に展開する。北から5号竪穴状遺構、2号墓坑跡、45号溝跡、55号掘立柱建物跡という配置である。

#### 5号竪穴状遺構（第23図）

調査区の北に位置する。平面形は隅丸方形と思われる。規模は東西1.9mである。床面から小土坑跡を検出している。覆土は黒褐色土を主体で、灰黄褐色土が混入する。埋土層下部に多くの礫が含まれていた。遺物は出土していないが、後述する28号溝跡などと埋土層が類似し、同時期のものと判断した。

#### 2号墓坑跡（第23図）

調査区の北側のほぼ中央に位置する。平面形は円形である。規模は径約1.5m、深さ0.9mである。底面中央部で人骨一体と副葬品を検出した。

#### 出土遺物（第26～28図）

1～31が2号墓坑跡から出土した遺物である。

1は煙管の雁首と吸口である。火皿には補強帯が巡り、脂返しの湾曲は弱く、直線的である。2は刃鎌である。目釘穴をもち、柄と刃はほぼ直交している。3～7は「寛永通宝」である。

8～29は鉄製品である。8～13は、薄い長方形の板の端にL字型の棒が付いた金具である。鉄板には固定するために打ち込まれた釘が残されている。打ち込まれた板の厚さは1.2cmである。14～20は先端部を環状に成形した割ピン状の釘である。板の厚さは2.4cmを計る。21～23は薄い板状の製品で、21は背面に明瞭な稜線をもって湾曲する。

24～29は角釘である。

30、31は不定形の剥片石器である。いずれも底辺の三角形の側縁に刃部を作り出す。

#### 55号掘立柱建物跡、45号溝跡（第23図）

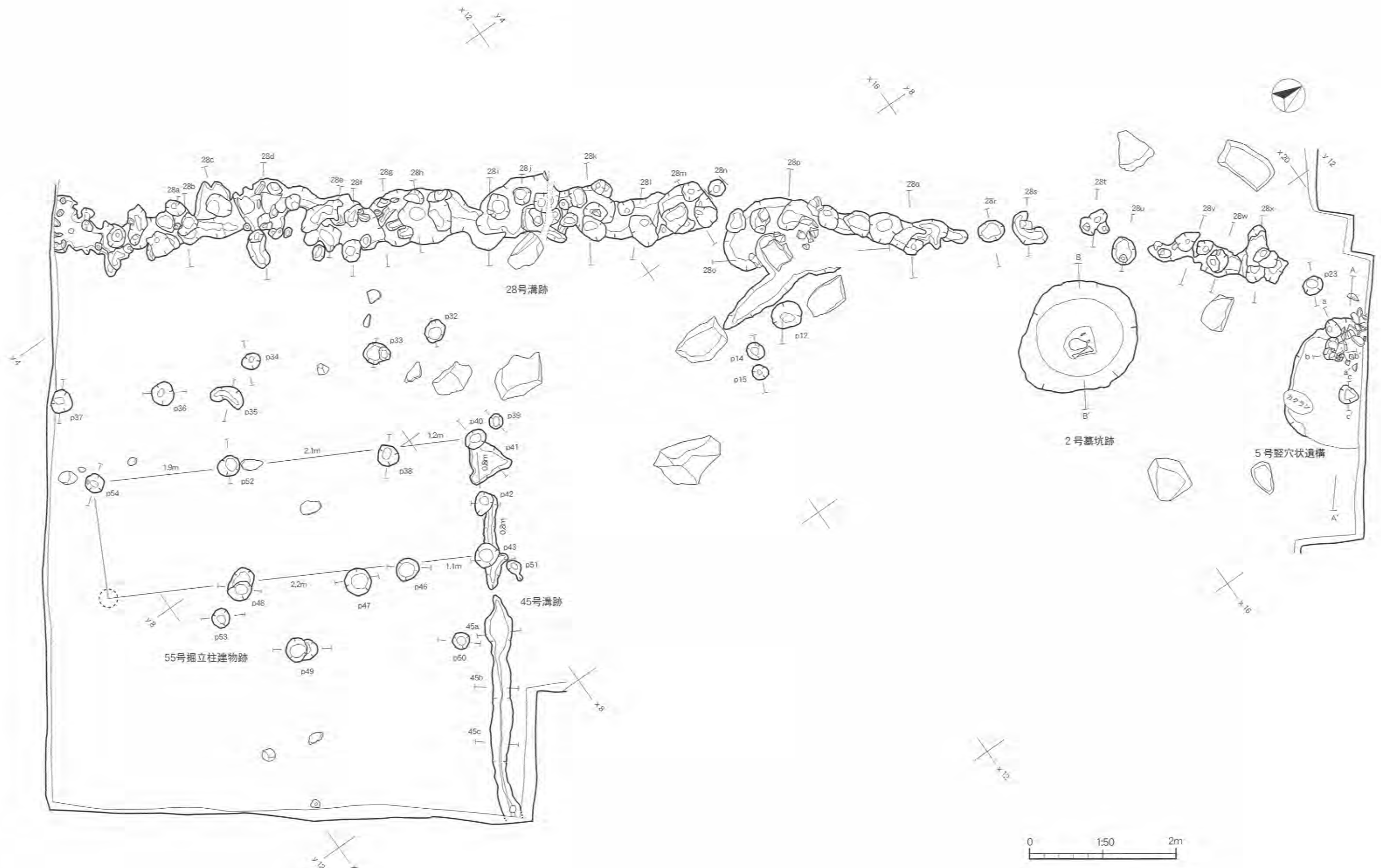
調査区の南東部に位置する。桁行2間半、梁行1間の長方形の建物跡で、規模は桁行総延長5.2m、梁行1.6mを測る。軸方向はp64→p46で、N29°Eである。小規模な建物跡である。

遺物は陶磁器、石器などが出土している。

#### 45号溝跡（第23図）

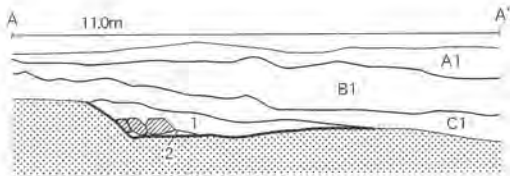
55号建物跡の梁柱と重複し、梁の延長方向に直線状に延びる。規模は、幅20cm前後、深さ約10cmである。

遺物は陶磁器が出土している（第28図）。



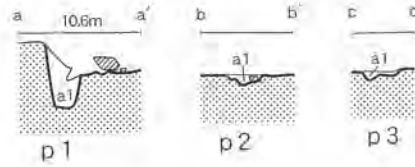
第23図 近世の遺構



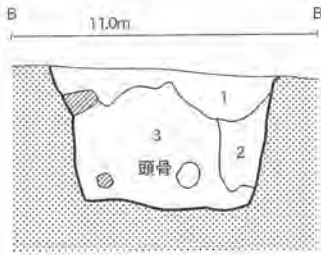


1 10YR3/1 黒褐、砂壤土  
固く、締りは中

5号竖穴状遺構

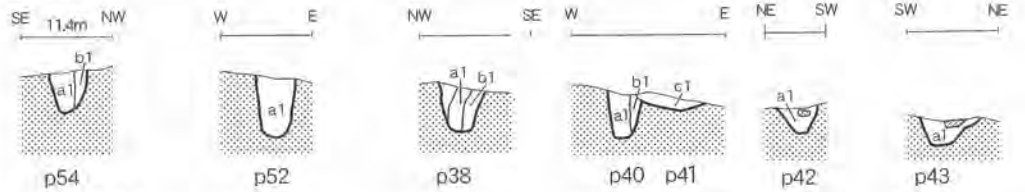


P1 a1 10YR2/2 黒褐、砂壤土 締りは中  
P2 a1 10YR2/1 黒、砂壤土 締りは中  
P3 a1 10YR4/3 にぶい黄褐、砂壤土 締りは中

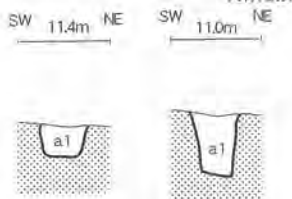


2号墓坑

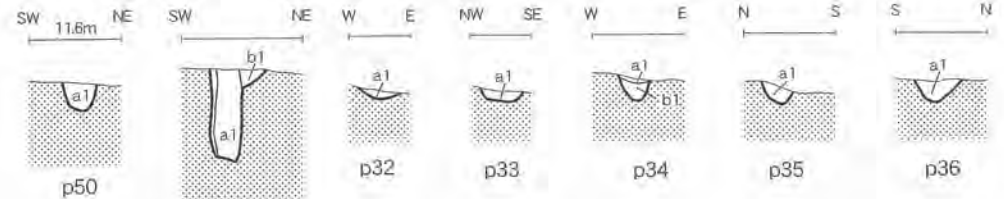
1 10YR4/6 褐、砂壤土 軟らかく締りがない  
2 10YR5/6 黄褐、砂壤土 締りは中  
3 10YR2/3 黒褐、砂壤土 軟らかく締りがない  
人骨、副葬品



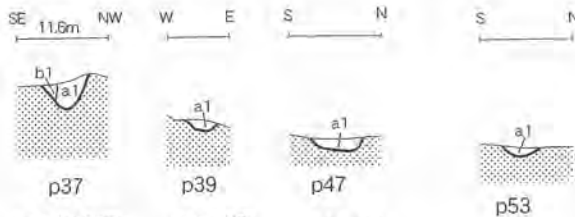
p54 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
b1 10YR4/4 褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
p52 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
p38 a1 10YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中～密  
b1 10YR4/4 褐、砂壤土 軟らかく締りはない  
p40 a1 10YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
p41 b1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中  
p42 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中  
p43 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中



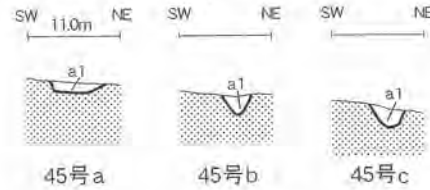
p46 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中  
p48 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中



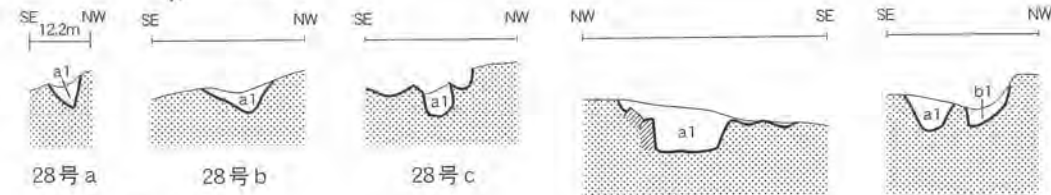
p50 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中  
p49 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中～密  
b1 10YR4/4 褐、砂壤土 固く、締りは密  
p32 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りはやや弱い  
p33 a1 10YR3/3 暗褐、砂壤土 締りは中  
p34 a1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
b1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
p35 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 締りは中  
p36 a1 10YR2/2 黒褐、砂壤土 固く、締りは密



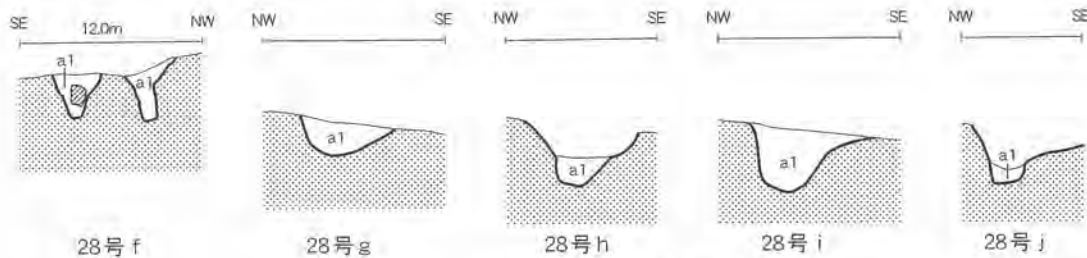
p37 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
b1 10YR3/3 暗褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
p39 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない  
p47 a1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中～密  
p53 a1 10YR3/4 暗褐、砂壤土 締りは中～密



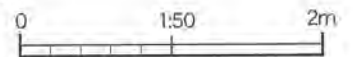
溝45 a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中

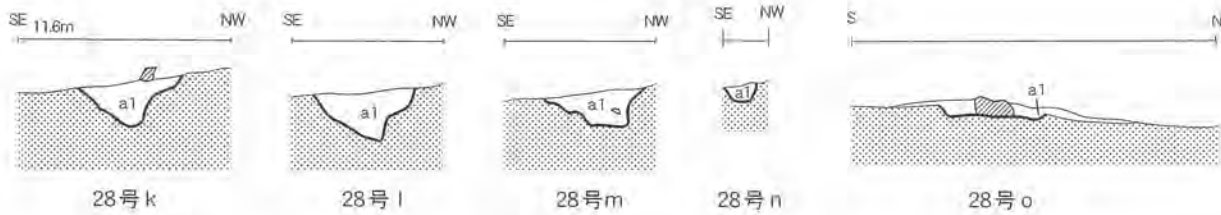


28号 a a1 10YR2/2 黒褐、砂壤土 締りは中、粘性あり 土師、角釘  
a1 10YR2/3 黒褐、砂壤土 やや固く、締りは中 やや赤味を帯びる



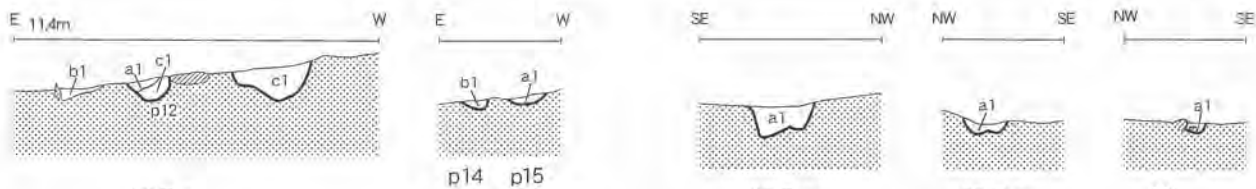
第24図 遺構土層断面 (1)





a110YR2/2 黒褐、砂壤土 締りは中、粘性あり 土師、角釘

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中



28号p

b110YR3/4 暗褐、砂壤土 やや軟、締りは中  
c110YR2/3 黒褐、砂壤土 やや軟、締りはない

p14 p15

a110YR4/3 にぶい黄褐、砂壤土 締りは中  
b110YR3/4 暗褐、砂壤土 固く、締りは中

28号g

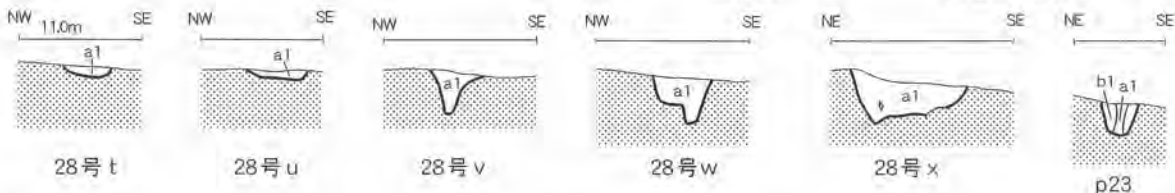
a110YR3/3 暗褐、砂壤土 軟らかく、締りがない

28号r

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りは中

28号s

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 やや固く、締りはない



28号t

a110YR3/3 暗褐、砂壤土 軟らかく締りがない

28号u

a110YR4/4 褐、砂壤土 やや固く、締りはない

28号v

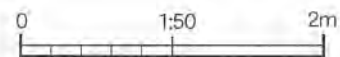
a110YR2/2 黒褐、砂壤土 軟らかく締りがない A、B、C 共通

28号w

28号x

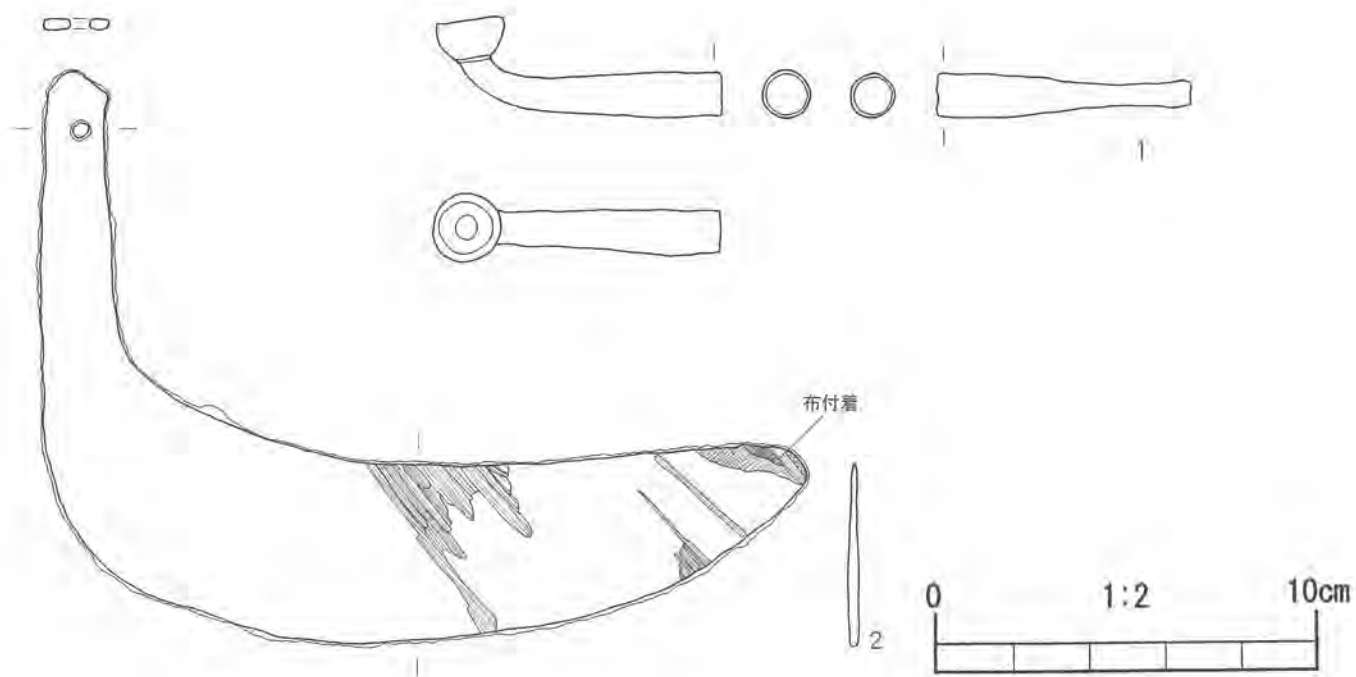
p23

a110YR3/4 暗褐、砂壤土 締りはない  
b110YR4/6 褐、砂壤土 締りはない



第25図 遺構土層断面 (2)





3

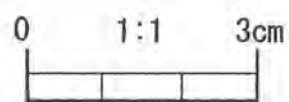
4

5

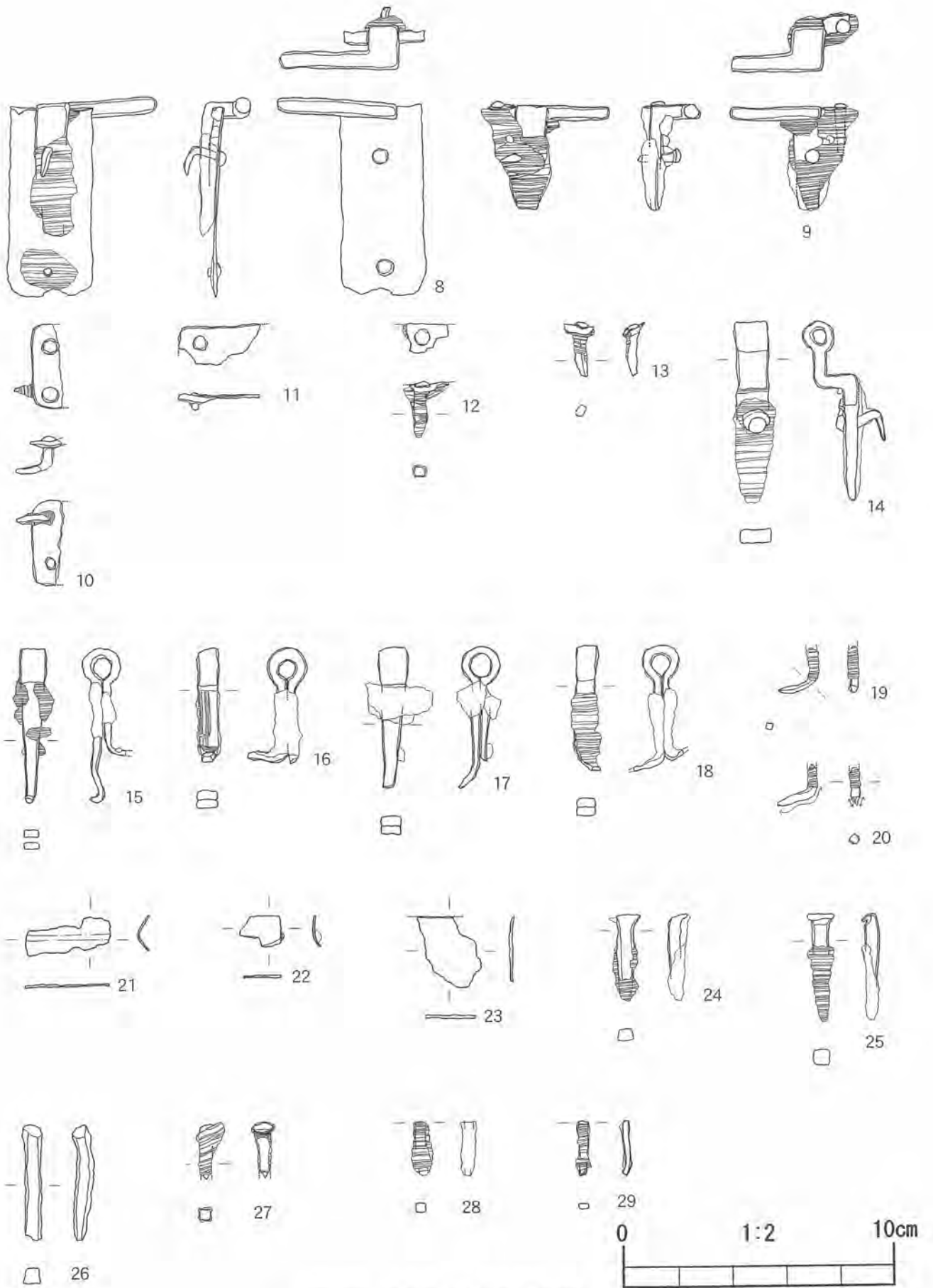


6

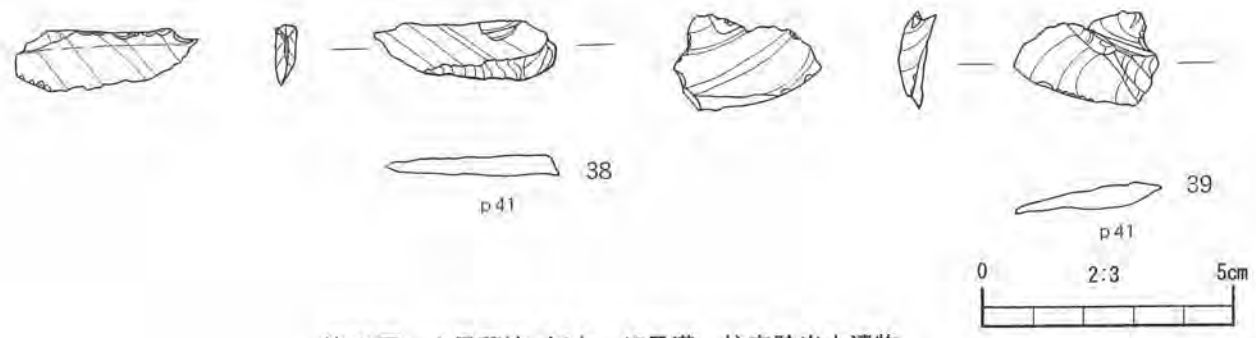
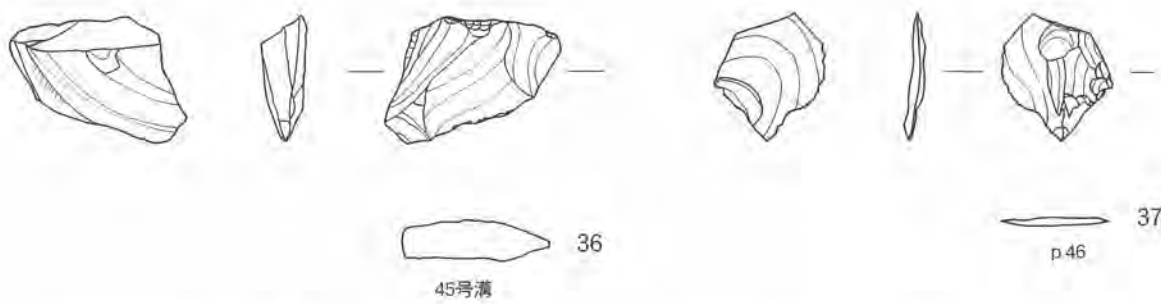
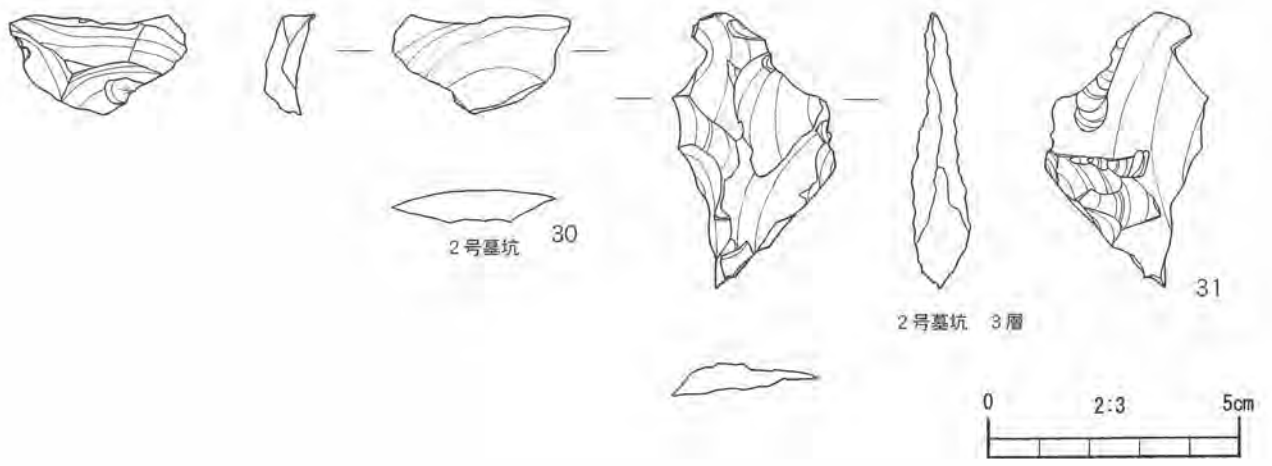
7



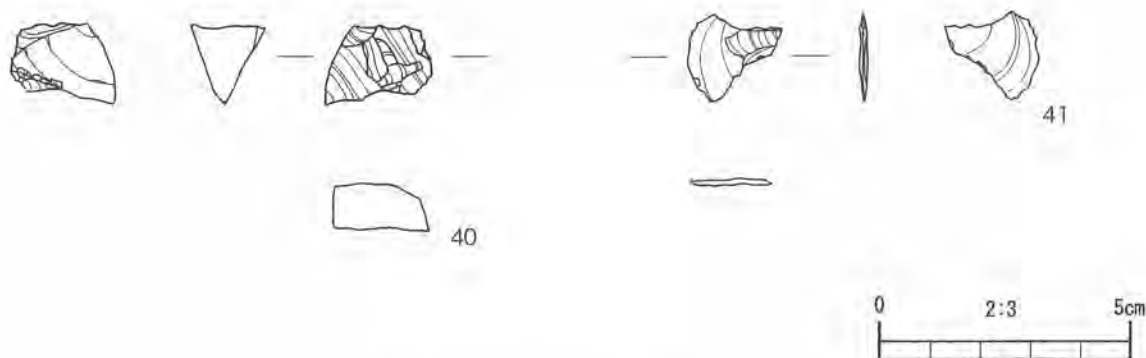
第26图 2号墓坑迹出土遺物(1)



第27图 2号墓坑迹出土遗物(2)



第28图 2号墓坑(3)、45号溝、柱穴跡出土遺物



第29図 28号溝跡出土遺物

### 28号溝跡（第23図）

調査区の中央部を南西部から北東方向に直線的に延びる。全体として直線状に延びているが、いくつもの小土坑を雑に掘り連ねたような形状である。規模は一様ではなく、幅が80cm～30cmと北に向かって狭くなり、深さは40cm～10cmとやはり北側で浅くなる傾向がある。

遺物は鉄滓、石器などが出土しているが、埋土層、遺構の配置などから2号墓坑跡、55号掘立柱建物跡に伴うものと判断した。

### 出土遺物（第28、29図）

建物跡、溝跡から出土したものを一括して載せた。

32～41は柱穴跡と45号溝跡から出土したものである。

32、33は陶磁器である。32は染付碗の口縁部である。外面に蕾を模した文様を描く。国産磁器で産地年代不明。33は青磁碗である。両面青磁で、貫入が入る。胎土は灰白色で、密である。産地年代不明。

34～41は剥片石器である。34は石鎌である。凹基、側縁は平たく二等辺三角形型である。35～41は不定形の石器である。35は側縁と底辺に直刃を作り出す。36、38、39は底辺の、37は側縁にそれぞれ刃部を作り出している。

40、41は28号溝から出土した不定形の石器である。40は底辺先端に、41は側縁に刃部を作り出している。

### 遺構外出土遺物（第30～33図）

1は染付磁器の碗である。筒型の湯呑と思われる。菊散らし文を外面に施す。施文がやや雑である。肥前系18世紀後半に伴うものと思われる。2、3は土師器坏の口縁部である。いずれも内黒処理を施されており、3は外面腰部に段をもつ。4は須恵器である。底部片であるが器種は不明である。

5～8は弥生土器である。5から7は口縁部で、いずれも浅鉢と思われる。弥生時代初頭に伴う。

9～12は縄文土器深鉢の口縁部と体部片である。1は山形口縁部で刻目が入る。9～11は繊維を含み、縄文前期に伴う。

13は敲打磨石である。機能面の両側に調整磨面をもつ。

14～37は剥片石器である。14～26は遺構検出面、27～37は堆積層から出土したものである。

14は石鏃である。平基で、正三角形型である。15、16は石匙である。15は縦型で、刃部はつまみに対して縦につき、尖らない。16は横型で、刃部はつまみに対して横につき、先端が尖る。

17～26は不定形の石器である。17～19は、三角形の底部に刃を作り出す。20～23の四角形で、側縁に刃部を作り出している。24～26の五角形の型である。24は側縁、25は周縁部、26は突出部に刃部を作り出している。

27は石匙である。横型で刃部はつまみに対して斜めにつき、先端が尖る。27～37は不定形の石器である。側縁に刃部を作り出しているのが、28～30、33～37である。

31、32は側縁と底面に刃部を作り出している。



粗掘り 2



粗掘り 3



A1層 4



5

遺検面



6

遺検面



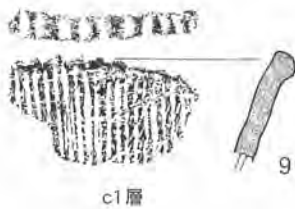
7

c1層~  
検出面



8

遺検面



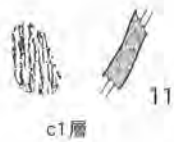
c1層



粗掘り



10



c1層

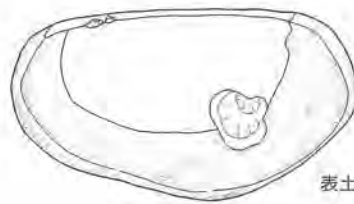
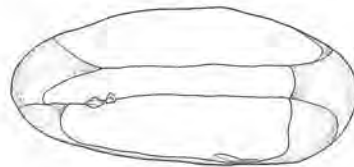
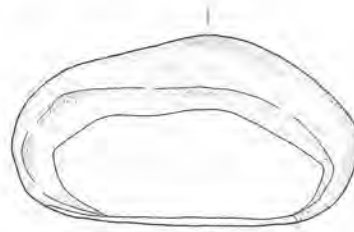
11



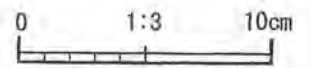
c1層



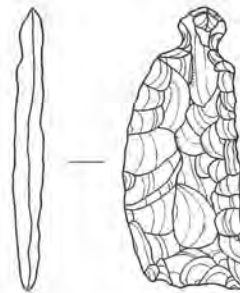
12



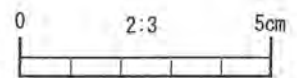
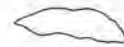
表土 13



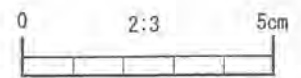
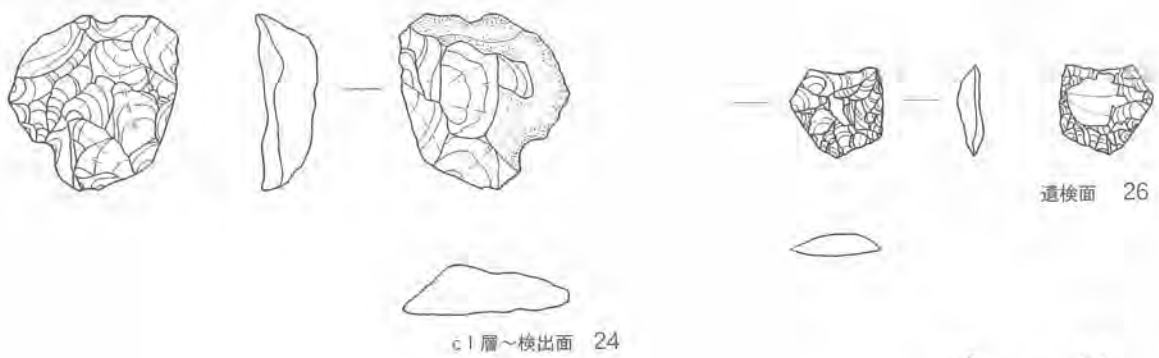
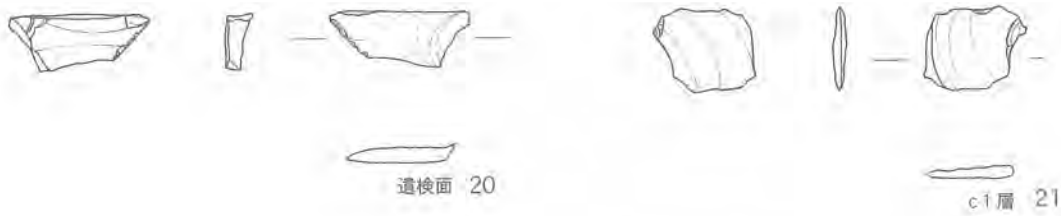
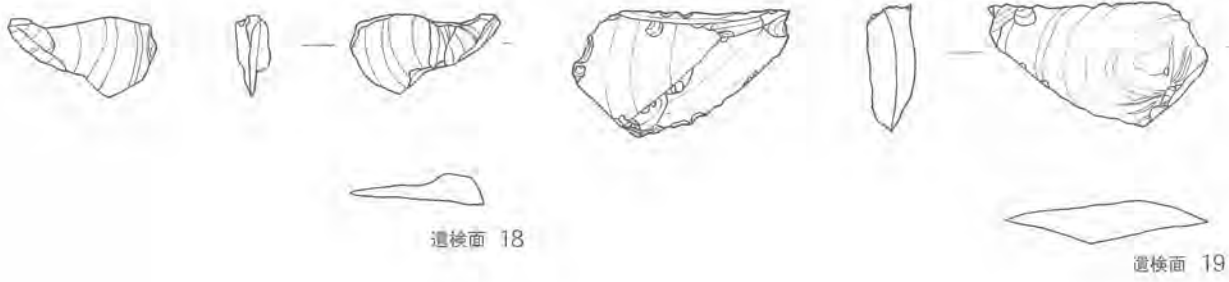
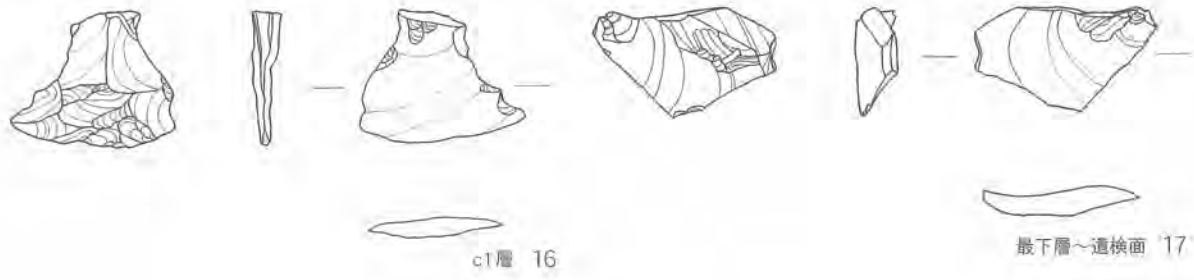
c1層 14



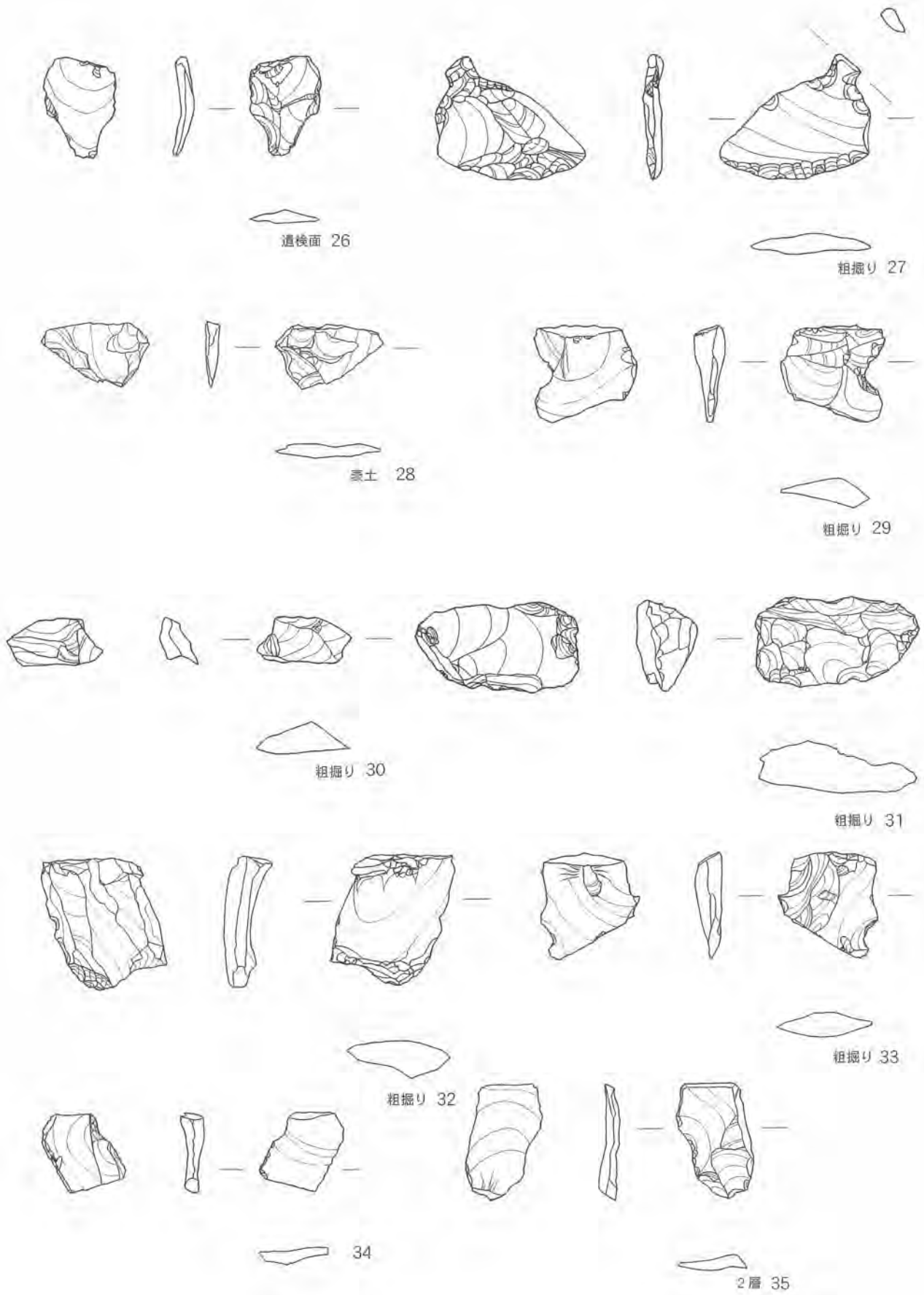
遺検面 15



第30図 遺構外出土遺物 (1)

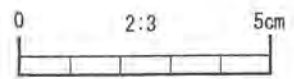
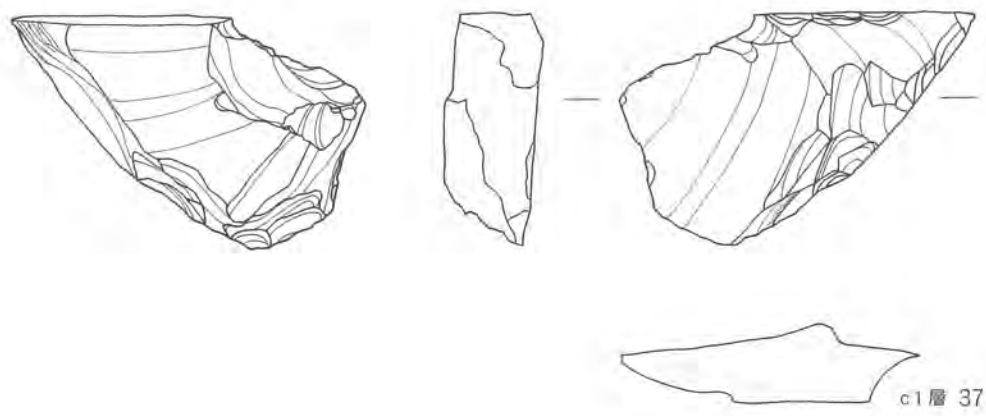
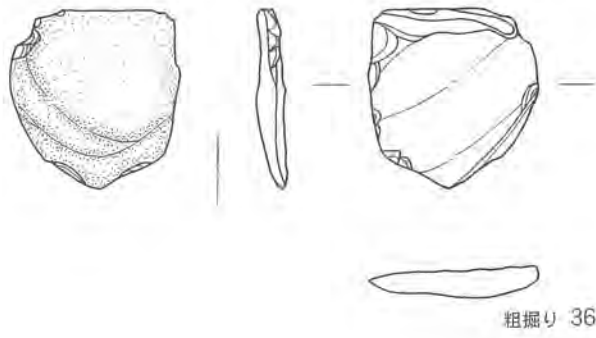


第31図 遺構外出土遺物 (2)



第32図 遺構外出土遺物 (3)





第33図 遺構外出土遺物 (4)

## 2-4 調査のまとめ

### 縄文時代の遺構について

26号竪穴状遺構と25号土坑群からは数は少ないが縄文時代前期、大木1式に伴う土器が出土した。今回の調査区の南東側にあたる畑地の試掘調査を平成11年度に行っている。その際にも縄文早期～前期にかけての遺物を主体に出土したことが報告されている。今回の調査でもほぼ同様の結果を得ており、当該遺構は縄文前期に伴うものと思われる。

### 古代の遺構について

住居跡と6基の土坑群が出土したが、やはり遺物の量が少なく年代の決定が難しい。p1から出土した土師器の甕と坏は奈良時代に伴うものである。平成9年に今回の調査区に隣接する山寄りの地点で行われた調査では、奈良時代の製鉄遺構が出土し、その周辺の畑からは多数の奈良時代の土器が出土している。これらの結果を参考にすれば、今回出土した遺構も奈良時代に伴う可能性はかなり大きいと思われる。

### 近世の遺構について

#### 墓坑跡について

江戸時代の墓坑については市内でもこれまでにいくつかの報告がなされている。副葬品については、寛永通宝などの銭貨、煙管などの例が最も多く、今回は鎌であったが、あわせて菜切り包丁、和欵などの刃物を伴うことがある。そのほかには陶器を伴った例もある。

今回の例で特徴的なことは、これまでの例では副葬品のほかに棺桶の蓋に使用したと思われる多数の釘が出土していたのが、今回は釘はわずかでその代りに第27図に示したような金具が出土したことがまず一つあげられる。L字状の棒金具(8, 9)と環状の頭部をもつ釘(14~18)をセットで蝶番として使えるとすれば、棺桶はいわゆる早桶と呼ばれる桶ではなく、箱型ということになり、しかも出土状況からみて横長の型ではなく、正方形に近い形が想定される(検出段階では確認できなかった)。市内では初出例である。

もう一つは、墓坑跡が孤立していることである。墓坑を検出した段階で、周辺に他の墓坑の存在を予想して調査したが検出できなかった。古くからの墓所は西の山際の残されていることから墓所以外のところに葬られたものと考えられる。時期については、副葬品の煙管から18世紀後半に伴うものと思われる。

#### 溝跡について

28号溝跡と同じような遺構が前述した上根井沢1遺跡でも出土している。風倒木痕のような形状、その直線状の連なり、配置からみて、柱を据えたというよりは「区画」を目的とした「生垣」、「柵」などの痕跡と考えられる。

#### 掘立柱建物跡について

柱穴の規模は小さく、柱間寸法はほぼ2m(6.6尺)を間尺として建てられたことが確認できた。建物の軸方向や、墓坑、溝跡などの配置からみて、前述の遺構に伴う小規模な建物と思われる。

写 真 图 版





調査区遠景（北東より）



調査区遠景（北から）

# 写真図版 6



調査区全景



第2次調査区



第1次調査区



26号竪穴状遺構



25号土坑群



28号溝跡（北側）



27号竪穴住居跡



28号溝跡（南側）



1号土坑跡



5号竪穴状遺構



2号墓坑跡



55号掘立柱建物跡、45号溝跡

# 写真図版 8



18-1



18-2



18-3



18-4



18-7



18-8



18-9



18-10



18-11



18-12



19-13



19-14



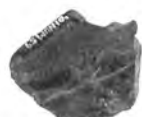
19-15



19-16



19-17



19-18



19-19



19-20



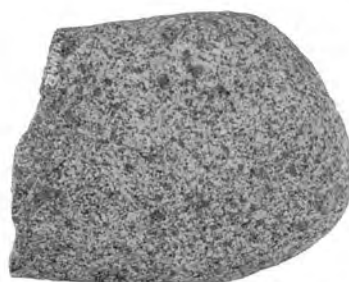
19-21



20-22



20-23



20-24



20-25



22-1



22-2



22-3



22-4



写真図版 9



26-2



26-1



26-3



26-4



26-5



26-6



26-7



27-8



27-9



27-10



27-21



27-14



27-16



27-15



27-17



27-18



26-25

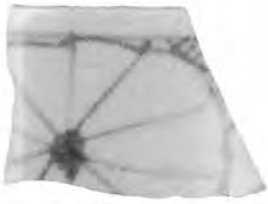


28-32



28-33

写真图版10



30-1



30-2



30-3



30-4



30-5



30-6



30-7



30-8



30-9



30-10



30-11



30-12



30-14



30-15



32-27



30-13

## 報告書抄録

ふりがな	かみねいさわ1いせき、ぬまりいせき							
書名	上根井沢1遺跡、沼里遺跡							
副書名	市内遺跡発掘調査報告書							
巻次	3							
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	60							
編著者名	阿部 豊							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号 TEL. 0193-62-2111 FAX. 0193-63-9119							
発行年月日	平成15年3月31日 (2003.3.31)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみねいさわ1 上根井沢I	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあづがむいしだい 大字津軽石第20 ぬわりあざねいさわ 地割字根井沢52 ばん 番3	03202	LG53-2063	39°33'53"	141°54'30"	試掘調査 20000605 ~20000619 本調査 20000709 ~20000808	450㎡	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上根井沢I	集落	近世	掘立柱建物跡、溝跡、土坑跡		陶磁器、石器		ちゅうせり 中振火山灰層の検出	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぬまり 沼里	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざつからいしだい 大字津軽石第6 ちわりぬまりばん 地割沼里9番10	03202	LG53-1225	39°34'40"	141°56'10"	試掘調査 20000704 ~20000728 本調査 20010809 ~20010904	219㎡	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
沼里	集落	縄文、古代、 近世	竪穴状遺構、土坑、 竪穴住居、墓坑、 掘立柱建物、溝跡	縄文土器、石器、 弥生土器、土師器、 須恵器、陶磁器、 鉄製品				

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- |   |  |
|---|--|
| 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』                           | 33 1992 『高根遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』   |
| 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』                            | 34 1992 『壺沢遺跡群－平成2年度発掘調査報告書－』  |
| 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』                            | 35 1992 『大付遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』   |
| 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』                            | 36 1992 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡<br>－農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』                         |
| 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』                      | 37 1992 『崎山遺跡群Ⅵ－平成3年度発掘調査概報－』  |
| 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』                            | 38 1993 『萩沢Ⅱ遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』  |
| 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』                              | 39 1993 『早稲橋Ⅱ遺跡－第1次・第2次発掘調査報告書－』   |
| 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』                            | 40 1993 『崎山遺跡群Ⅶ－平成4年度発掘調査概報－』  |
| 9 1986 『宮古市遺跡分布図－昭和60年度版－』                        | 41 1994 『崎山遺跡群Ⅷ－平成5年度発掘調査概報－』  |
| 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』                           | 42 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』   |
| 11 1987 『崎山貝塚・トノノ木Ⅳ遺跡調査報告書』                       | 43 1995 『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』  |
| 12 1987 『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』                          | 44 1995 『崎山貝塚－範圍確認調査報告書－』  |
| 13 1987 『崎山遺跡群Ⅰ－昭和61年度発掘調査概報－』                    | 45 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡<br>－市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』                 |
| 14 1988 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)<br>－昭和62年度発掘調査報告書－』 | 46 1995 『花原市遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』  |
| 15 1988 『崎山遺跡群Ⅱ－昭和62年度発掘調査概報－』                    | 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』                                      |
| 16 1989 『千鶴遺跡－昭和62年度発掘調査報告書－』                     | 48 1996 『大付遺跡－平成5年・6年度発掘調査報告書－』  |
| 17 1989 『トノノ木Ⅰ遺跡－第1～7次発掘調査報告書－』                   | 49 1997 『花原市遺跡－平成8年度発掘調査報告書－』  |
| 18 1989 『崎山遺跡群Ⅲ－昭和63年度発掘調査概報－』                    | 50 1997 『白石遺跡－第6次発掘調査報告書－』   |
| 19 1989 『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』                     | 51 1998 『赤畑・天神山・山口館<br>－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』                        |
| 20 1989 『狐崎Ⅱ遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』                    | 52 1998 『藤畑遺跡－平成9年度発掘調査報告書－』   |
| 21 1989 『崎山トノノ木Ⅳ遺跡－昭和63年度調査報告書－』                  | 53 1999 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋Ⅰ・小堀内Ⅲ遺跡<br>－水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |
| 22 1990 『狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－』                      | 54 1999 『千鶴Ⅳ遺跡<br>－水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』                     |
| 23 1990 『崎山遺跡群Ⅳ－平成元年度発掘調査概報－』                     | 55 1999 『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報』  |
| 24 1990 『磯鶏館山遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』                   | 56 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡<br>－特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書－』         |
| 25 1990 『銀ノ崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』                   | 57 2002 『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』                                  |
| 26 1991 『崎山遺跡群Ⅴ－平成2年度発掘調査概報－』                     | 58 2002 『小沢Ⅱ大上遺跡－市内遺跡発掘調査報告書2－』  |
| 27 1991 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群－平成元年・2年度発掘調査報告書－』             | 59 2003 『大又沢Ⅱ遺跡－東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書－』                               |
| 28 1990 『熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』                    | 60 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡－市内遺跡発掘調査報告書3－』                                     |
| 29 1991 『弘川Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』                     |  |
| 30 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)<br>発掘調査報告書』    |  |
| 31 1992 『重茂館遺跡群－第1次調査報告書－』                        |  |
| 32 1992 『黒森町Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』                    |  |

宮古市埋蔵文化財調査報告書60

かみね いさわ 1 いせき ぬまり いせき  
上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡  
－市内遺跡発掘調査報告書3－

平成15年3月31日発行

編集発行 岩手県宮古市教育委員会  
〒027-8501 宮古市新川町2番1号  
TEL.0193-62-2111  
印刷 株式会社文化印刷  
〒027-0037 宮古市松山5-13-6  
TEL.0193-62-4578





